

大阪湾再生行動計画（第三期） 令和7年度の取り組み成果 【概要版】

令和8年3月
大阪湾再生推進会議

背景(1)

①大阪湾の特性

- 2箇所の湾口(明石海峡(4km)、紀淡海峡(7km))を持つ閉鎖性の高い海域(海域面積:1,447km²、平均水深28m)
- 大きな人口・産業集積を有する集水域を抱える(集水面積11,200km²、人口1,715万人(令和5年1月時点))

➡ 陸域から大量の汚濁負荷が流入するとともに、外海との海水交換がしにくい地形から、富栄養化による水質の悪化や、生物生息環境の悪化が生じやすい。



集水域界

大阪湾とその集水域

②第一期計画の評価と課題

【最終評価(総括)】

- 湾口部～湾央部では、水質改善が進んでいるものの、栄養塩不足の声もあり。
- 湾奥部は、汚濁の改善がみられず、貧酸素状態もみられる。
- 施策の効果とみられる変化あり。(汚濁物質濃度の減少、再生された干潟等での生物生息など)
- 森・川・海の住民参画による取り組みへの参加者が増加するとともに、環境にふれあう場が拡大。

【課題】

- (1) 多様な生物の生息・生育
 - 特に湾奥部において、底層DO改善のための取り組みの強力な推進が必要。
 - 生物の生息・生育場については、今後も積極的な整備を進めていくことが望ましい。
- (2) 人と海との関わり
 - 特に湾奥部において、水質改善のための取り組みの推進が必要。
 - 親水活動の場については、今後も積極的な整備の推進を行うことが望ましい。
 - 浮遊・漂着・海底ごみについても、引き続き積極的な取り組みの推進が望ましい。

背景(2)

③第二期計画の評価と課題

【最終評価(総括)】

- 美しい「魚庭(なにわ)」の海:海の色・におい・ごみについて、利用者からポジティブな回答が増加しており、取り組みによる成果が現れていると考えられた。
- 親しみやすい「魚庭(なにわ)」の海:親水護岸及び親水緑地の整備が進むとともに、親水施設が利用され、イベントが継続的に開催されている。
- 豊かな「魚庭(なにわ)」の海:底層DOは改善傾向にある。また、干潟や緩傾斜護岸等で整備が進むとともに、底生生物の種類数や個体数が増えている地点もみられる。



【課題】

(1)美しい「魚庭(なにわ)」の海

全窒素・全リンの低下は湾奥部ほど顕著であるが、湾中央部から湾口部にかけては貧栄養が課題である。河川ごみ・海洋ごみについては、回収活動が継続的に実施されているものの、陸域での発生源対策、マイクロプラスチックになる前の対策等も必要である。

(2)親しみやすい「魚庭(なにわ)」の海

親水施設の整備・維持管理、パブリックアクセスの向上とあわせて、施設の利活用や多彩なイベントの継続・内容の充実化及びこれらの広報等が重要である。市民や企業の参画促進・支援については、参画・支援の実施状況を把握するとともに、参画しやすい活動の実施及び支援内容等について調整を進めることが重要である。

(3)豊かな「魚庭(なにわ)」の海

底層DOは改善傾向にあるが、湾奥部は夏季に5.0mg/L以下となっている。生物が生育・生息できる場の整備・維持管理とともに、生物の生育・生息に適した水質(栄養塩類、溶存酸素量)の維持、水質が悪くなる原因となっている窪地の修復等が必要である。また、生物多様性の保全等の取り組みの促進及び支援等も重要である。地球温暖化対策の観点からは、ブルーカーボン生態系の取り組みを拡大していくことが望まれる。

大阪湾再生行動計画(第三期)の概要

①意義・方向性

- 大阪湾はそのほとんどが大都市圏に囲まれており、高度成長期以降の都市化の進展に伴い、水質汚濁が慢性化し、人と海との関わりも希薄化してきた。
大阪湾の水質を改善し、人と海の間隔を回復する「大阪湾の再生」は、豊かでうるおいある質の高い都市生活の実現に不可欠の取組である。
更に、海は海草・海藻類、底生生物、魚類、鳥類等が生息する豊かな生態系を育み、生態系サービスを通じて人々の生活・経済を支える存在であり、「大阪湾の再生」により大阪湾が持つ機能を回復することは、大阪湾に関わる人々の持続可能で豊かで質の高い生活の実現に寄与するものである。
こうした認識を踏まえ、以下の方向性で大阪湾の再生を進めていくものとする。

②目標

森・川・里・都市・海のネットワークを通じて、
美しく豊かで親しみやすい「魚庭（なにわ）の海」を回復し、
多様な主体や世代が参画・連携して「次世代に引き継げる大阪湾」を創出する

③計画期間

- 令和6年度から令和15年度までの10年間

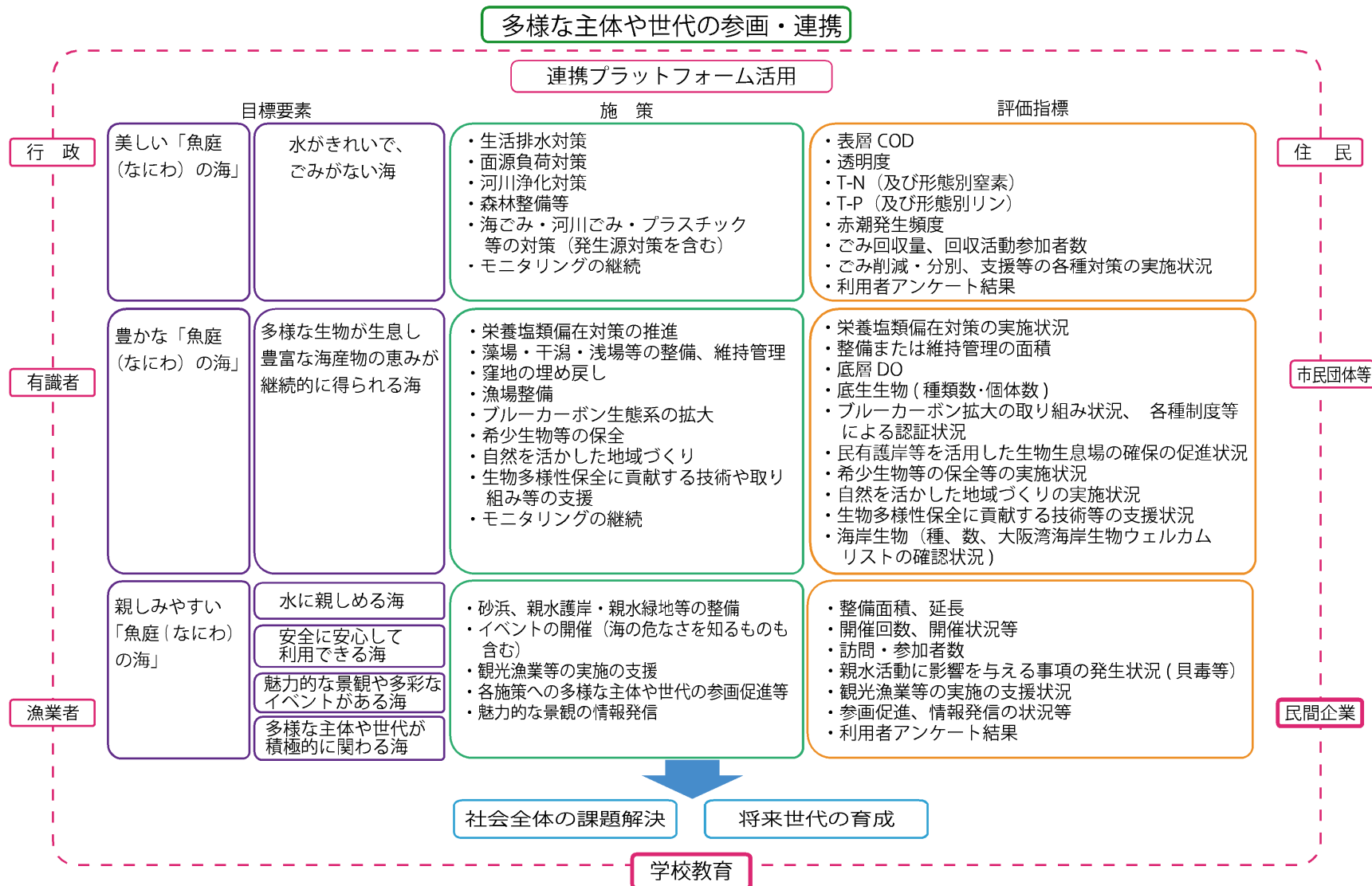
④取り組み体制

- 大阪湾再生推進会議において策定・推進する。
- 推進会議には幹事会を置き、幹事会にはワーキンググループ(陸域、海域、モニタリング、全体)を置く。

目標達成状況の評価について

⑤ 目標達成状況の評価について

- 目標を3つの目標要素に区分し、それぞれの目標要素を達成するための施策、施策の達成状況の評価するための評価指標、及び関係者を設定する。
- 目標達成状況は、評価指標の経年的な変化等で評価し、進捗状況を順応的に管理する。



※第三期計画では、民間企業及び学校教育との連携をより一層図っていく。

I 目標達成状況

美しい「魚庭の海」に向けた 取り組みの状況

美しい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その1）

取り組みの状況

1. 生活排水対策

- 下水道の普及促進、高度処理化、農業集落排水事業等により、陸域から流入する汚濁負荷を削減。
 - ・下水道普及率：86.7%（H16）→96.2%（R6）
 - ・高度処理普及率：37.9%（H16）→59.9%（R6）
 - ・農業集落排水施設整備率：79.4%（H16）→99.1%（R6）

2. 面源負荷対策

- 負荷削減のための計画策定・見直し、計画に基づく事業の実施。

3. 河川浄化対策

- 浄化浚渫等により、河川の浄化を実施。（琵琶湖内湖、古川、平野川）

4. 森林整備等

- 行政や市民、企業等の参加による森林整備を実施。

5. 海ごみ・河川ごみ・プラスチック等の対策（発生源対策を含む）

- 河川・海域で、行政や市民・企業等の参加によるごみ回収活動を実施。

6. モニタリングの継続

- 大阪湾再生水質一斉調査、水質・底質・ごみの量等の各種モニタリングを継続実施。



美しい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その2）

取り組みの評価結果

1. 表層COD <5mg/L以下>※
 - COD75%値：**環境基準未達成海域あり**
 - 湾奥部：夏季に概ね**5mg/L以上**
 - 湾口部～湾央部：夏季に概ね**3mg/L以下**
2. 透明度※
 - 湾奥部：夏季に概ね**2~3m程度**
 - 湾央～湾口部：夏季に概ね**5m以上**
3. 窒素、4. 磷※
 - 低下傾向にあり、環境基準を達成**

※ <>内は評価指標値の目安

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用

5. 赤潮の発生状況

- 行動計画策定以降年間**10~29件**発生。
令和6年には赤潮が12件発生し、漁業被害の報告が仮屋漁港で1件あった。

6. ごみ回収量・回収活動参加者数

- ごみ回収量：641.4t
- 回収活動参加者数：22,074人

7. ごみ削減・分別、支援等の各種対策の実施状況

- 掃除道具等の貸与、団体等の清掃活動に対する保険の加入、補助金等の実施

取り組みの成果

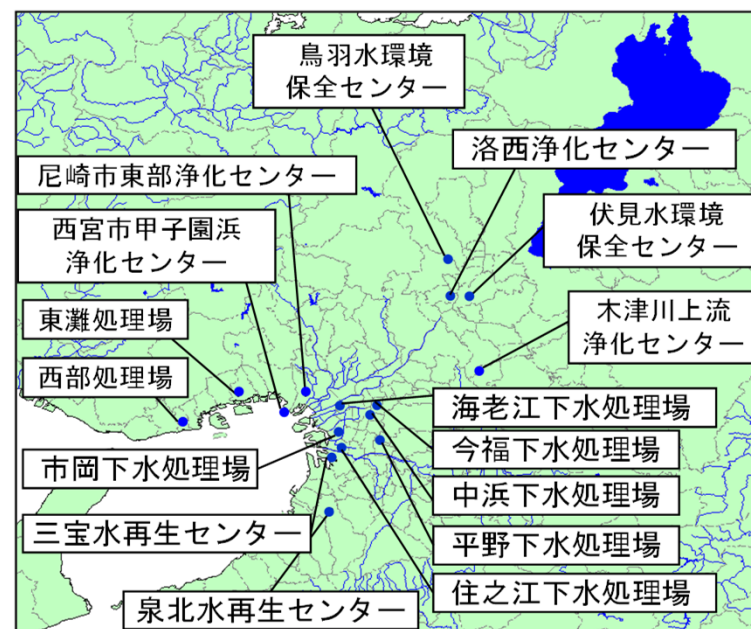
- 湾奥部は環境基準未達成（COD75%値）で、快適な散策・展望に適さないとされる海域もあるが、窒素・磷は低下傾向にあり、環境基準の達成等、水質に変化がみられる。
- 湾口部や湾央部は環境基準未達成（COD75%値）であるが、水質が悪化する夏季でも、散策・展望の面で概ね良好な水質を維持し、窒素・磷は環境基準を満たしている。
- ごみ回収活動の支援や実施、マイクロプラスチックの削減に向けた検討等が望まれる。

1. 生活排水対策(その1)

- 汚濁負荷量の総量削減を実施。
 - ・ 第9次総量削減方針の推進。次期総量削減の在り方について検討中。[環境省]
 - ・ 第9次総量削減計画の推進。[京都府、大阪府、兵庫県、奈良県]
- 下水道の普及促進を実施。[滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、京都市、堺市、神戸市]
- 高度処理施設の増設及び改築の促進。[滋賀県、京都府、兵庫県、京都市、堺市、神戸市]
- 合流式下水道の改善を実施。[大阪府、大阪市]
- 農業集落排水施設の整備・改築更新・機能強化等を実施。[近畿農政局、京都府・大阪府・滋賀県・兵庫県・奈良県の関係市町村]
- 流域住民の参加による負荷削減対策として大和川水質改善強化月間を実施。[近畿地方整備局]



高度処理施設（西部北系）



高度処理化等取り組み施設
(令和7年度)

1. 生活排水対策(その2)

【下水道事業】

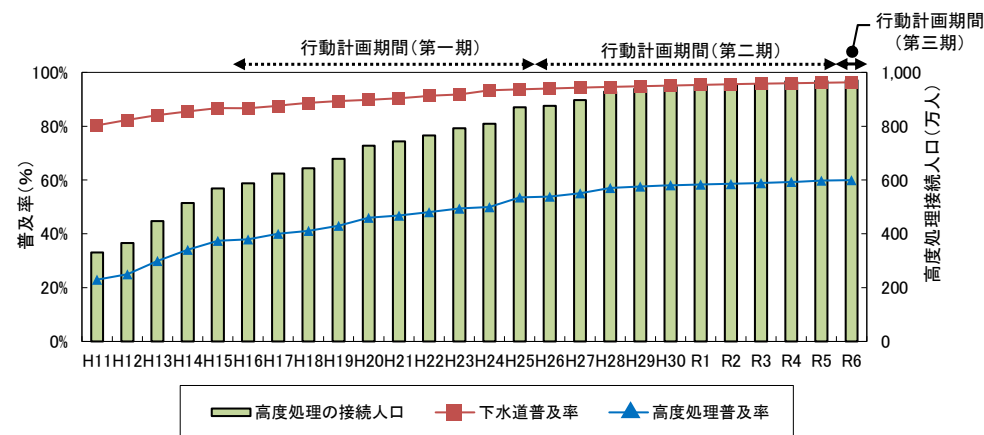
- 下水道普及率、高度処理普及率ともに着実に向上。

○下水道普及率：

86.7% [H16] →96.2% [R6]

○高度処理普及率

37.9% [H16] →59.9% [R6]



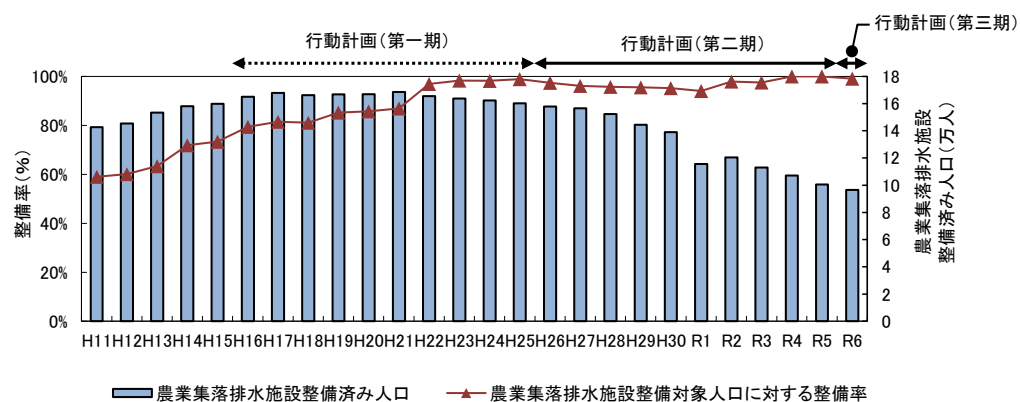
※下水道普及率、高度処理普及率は大阪湾流域内人口に対する処理区域内人口の割合を示す。

【農業集落排水事業】

- 農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は概ね100%を達成。

○農業集落排水施設整備率

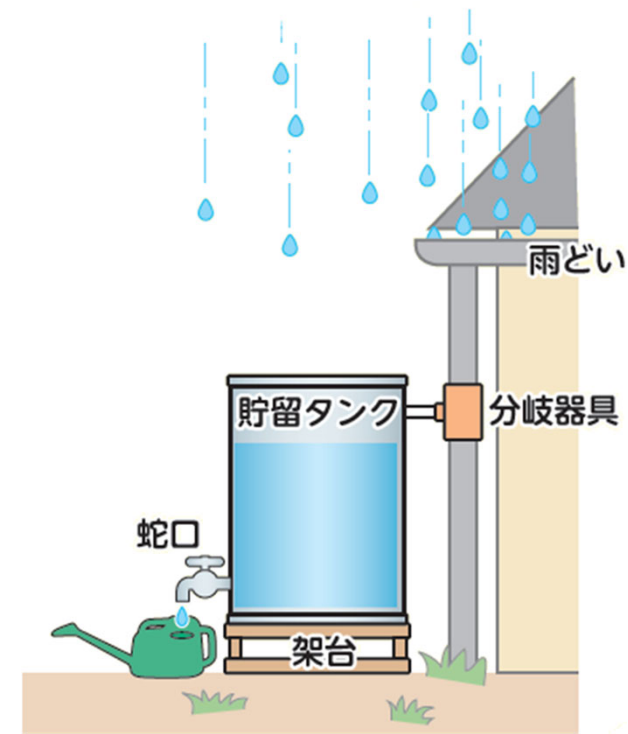
79.4 % [H16] →99.1% [R6]



※農業集落排水施設整備対象人口に対する整備率は整備計画人口に対する整備済み人口の割合を示す。

2. 面源負荷対策

- 雨水幹線の整備等により降雨時に流出する汚濁負荷の軽減を実施。
（山寺川市街排水浄化対策事業、
守山栗東雨水幹線整備事業）〔滋賀県、
草津市、守山市、栗東市〕
- 助成制度により一般家庭等を対象とした雨水貯留タンクの普及促進。
〔大津市、京都市、京都府内関係市町村、大阪市〕
- 農業濁水の発生抑制・流出防止のため、チラシ、巡回による啓発活動、新たな濁水対策技術の普及定着、環境こだわり農産物の生産拡大を実施。〔滋賀県〕



一般家庭等に設置する
雨水貯留タンクのイメージ

3. 河川浄化対策

- 河川浄化施設の整備、維持管理、水質保全等の事業を継続実施。[滋賀県、大阪府、奈良県]
- 古川・平野川の浄化浚渫、琵琶湖内湖（木浜内湖）の浚渫工、モニタリング調査を継続実施。[滋賀県、大阪府]



河川浄化浚渫・覆土の実施場所



河川浄化浚渫工事（平野川）

4. 森林整備等

- 森林の持つ多面的機能の持続的発揮に向けた森林整備事業、治山事業等を実施。
（間伐、保安林指定等）[近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、兵庫県関係市町ほか]
- 一般市民等の参画・連携による森林整備を実施。（伊崎国有林、箕面国有林）[近畿中国森林管理局]
- 森林ボランティア団体への支援を実施。
（企業の森づくり活動を支援等）[滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県]
- 公共工事等での間伐材等の利用を推進。
[近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県]



下刈り(伊崎国有林)

ボランティアによる森林整備



森林教室(箕面国有林)

植林学習会の様子

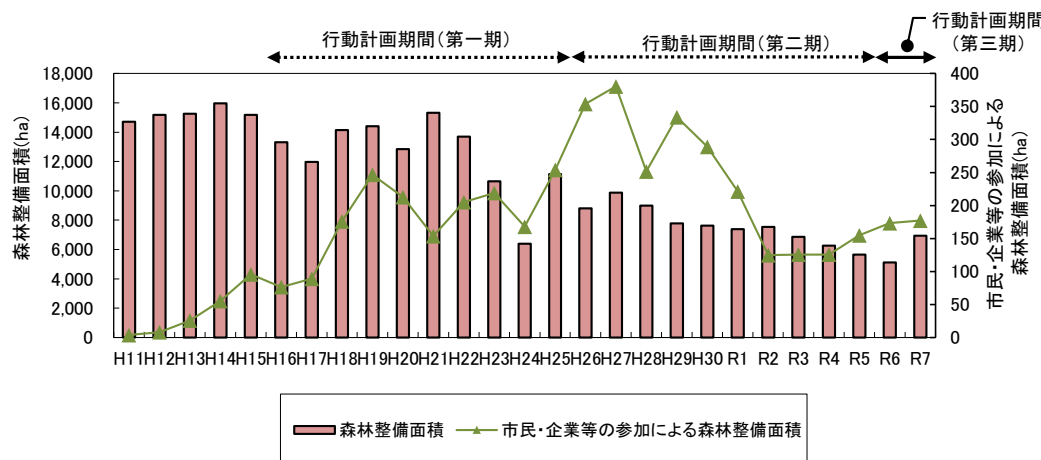


木製落石防護柵 (和歌山県内)



丸太式残存型柵 (兵庫県内)

公共工事での間伐材の利用



※令和7年度の森林整備面積は見込み値を含む



市民、NPO、企業等の参画・連携による主な森林整備の実施場所

5. 海ごみ・河川ごみ・プラスチック等の対策

- 市民・NPO・企業・行政が一体となった河川清掃活動を実施。（淀川水系、大和川水系等）[近畿地方整備局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県等]
- プラスチックごみの起源解明等や削減推進の普及啓発とともに事業者による取り組みの促進を図る。[滋賀県]
- 市民・企業等との連携による海岸美化活動の支援を継続実施。[近畿地方整備局及び各自治体、アドプト・シーサイド・プログラム、ボランティア団体海守OSAKAなど]
- 海ごみ・漂着ごみ・海底ごみを回収。[大阪府、（特非）海域美化安全協会]
- 海事関係者への巡回及び訪船による海洋汚染防止指導を実施。[第五管区海上保安本部]
- 海洋環境整備船により浮遊ごみを回収。[近畿地方整備局]
- 海洋短波レーダー及び大阪湾内7地点に設置した水質定点自動観測機器による連続観測によるデータをリアルタイムでインターネット配信。
[神戸港湾空港技術調査事務所、神戸港湾事務所]



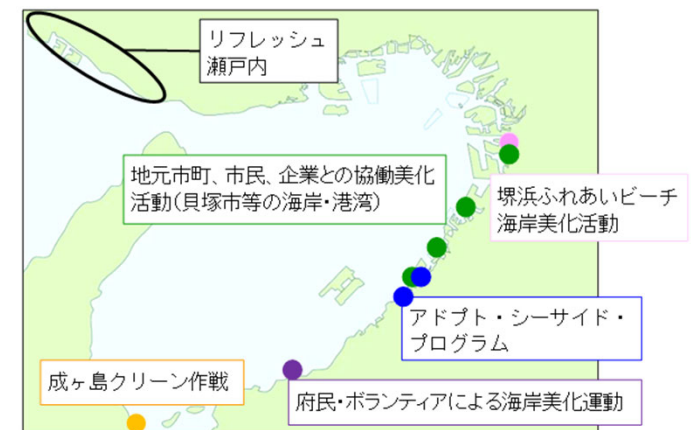
大和川一斉清掃

大和川クリーンデー



海洋環境整備兼油回収船等による浮遊ごみ等の回収

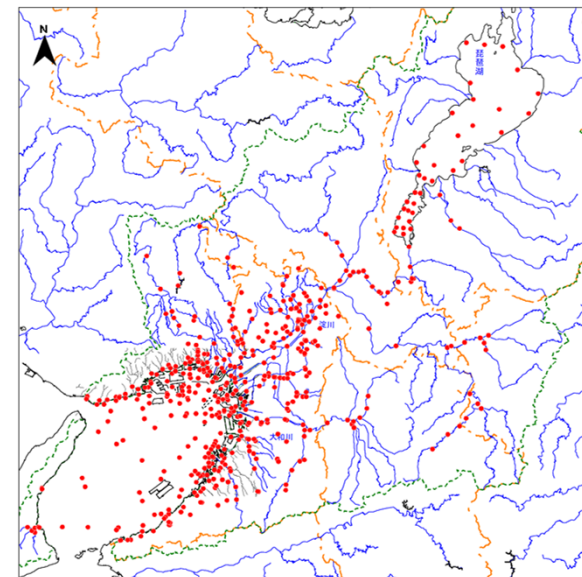
主なごみ回収活動の実施状況



主な海岸美化活動の実施場所

6. モニタリングの継続

- 大阪湾再生水質一斉調査を、海域28機関(168地点)、陸域18機関(368地点)が実施。[神戸港湾空港技術調査事務所、各自治体、民間企業、研究機関など]
- 大阪湾水質定点自動観測を継続実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]
- 広域総合水質調査、瀬戸内海総合水質調査、公共用水域水質調査における水質・底質等の調査を継続実施。[環境省、各自治体]
- 水生生物調査として、瀬戸内海総合水質調査の大阪湾の底質調査地点において、水塊動向の結果として底生生物への影響について調査を実施。[神戸港湾事務所]
- 地域住民等と協働による河川水質調査を実施。[近畿地方整備局]
- 窪地修復等に関する検討会でモニタリング結果や窪地の埋め戻しに関する課題等の検討を実施。[近畿地方整備局]
- 事業実施個所でのモニタリング調査を実施。[大阪湾広域臨海環境整備センター]
- 大阪湾に流入するプラスチックごみ量の推計及び大阪湾の海岸におけるごみの組成調査を実施。[大阪府]
- 各調査結果をホームページ等で公開。[近畿地方整備局、各自治体など]



令和7年度大阪湾再生水質一斉調査の実施地点(地点)

美しい「魚庭の海」に向けた 取り組みの評価結果

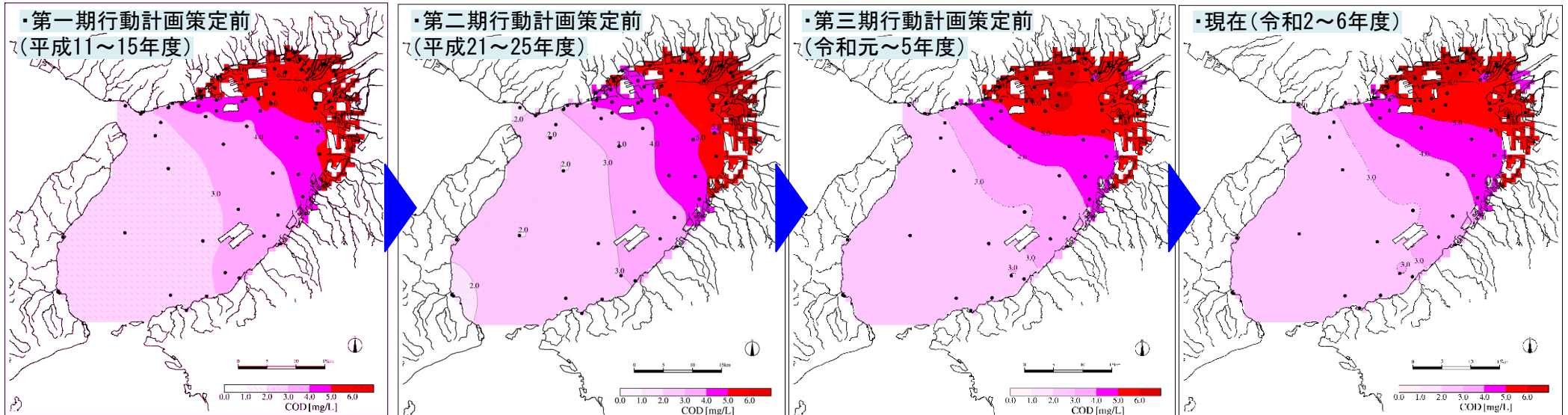
1. 表層COD

【公共用水域水質測定結果による夏季(6~8月)5年平均※】

- 第一期行動計画策定前と現在の比較
夏季では、依然として湾奥部の一部で快適な散策・展望の目安となる5mg/Lを超える海域がみられる。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較
堺港周辺では5mg/Lを超える海域がやや縮小している。
- 第三期行動計画策定前と現在の比較
湾奥部の5mg/Lを超える海域に大きな変化はみられない。

⇒特に湾奥部において、今後も取り組みを推進することが望まれる。

・夏季(6~8月)5年平均※



※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。

水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

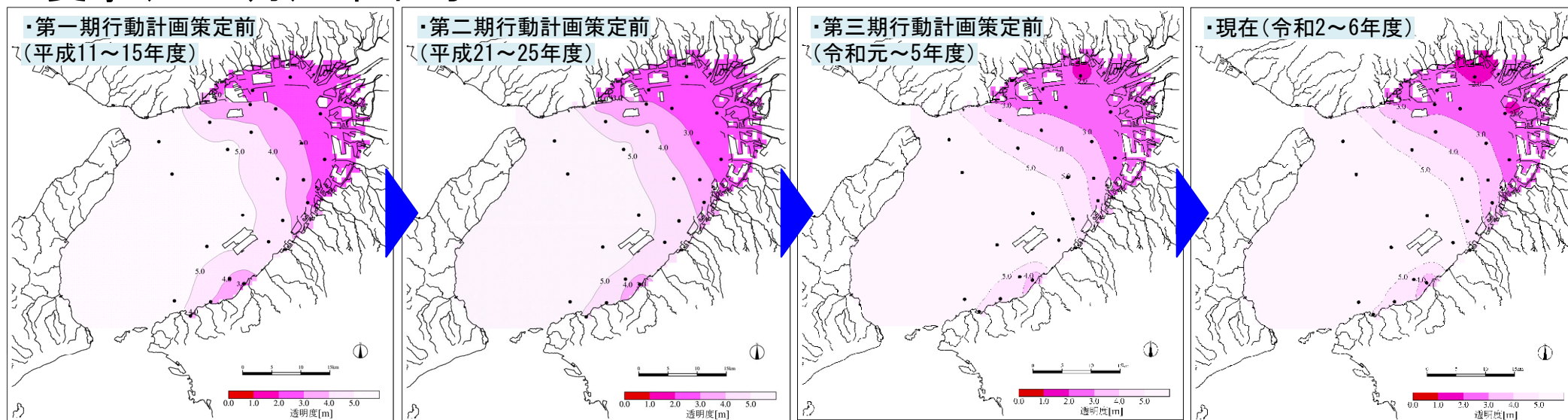
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

2. 透明度

【公共用水域水質測定結果による夏季(6~8月)5年平均※】

- 第一期行動計画策定前と現在の比較
夏季では、湾央~湾奥部では2~3m程度の透明度が低い海域がみられ、湾口部では5m以上の透明度が高い海域が湾奥部方向へ拡大している。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較
夏季では5m以上の海域の南東部への拡大がみられる。
- 第三期行動計画策定前と現在の比較
5m以上の海域に大きな変化はみられない。

・夏季(6~8月)5年平均※



※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。

水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

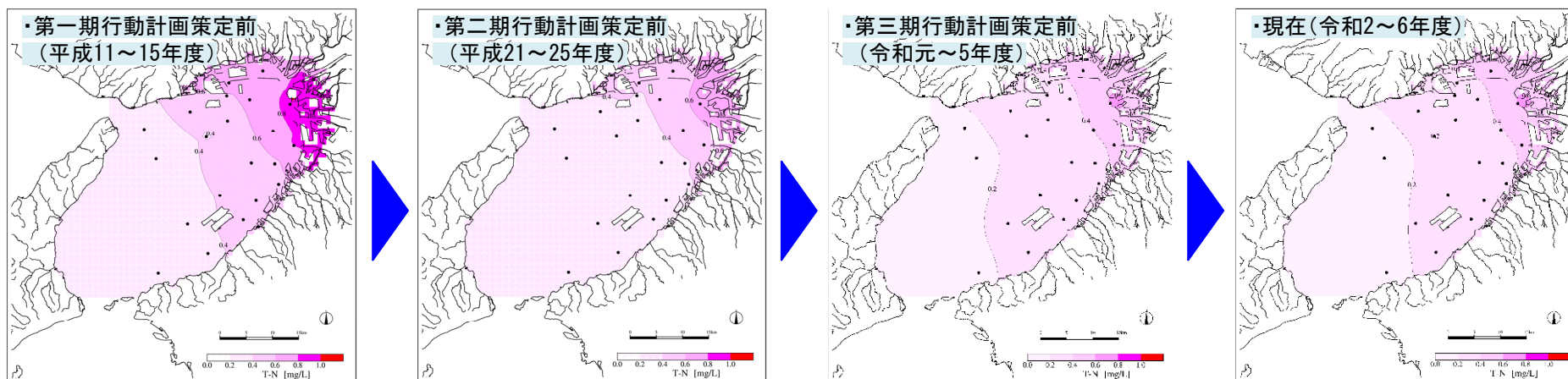
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

3. 窒素

【公共用水域水質測定結果による5年平均※】

● 全窒素

- ・第一期、第二期行動計画策定前と現在の比較：全域で低下傾向がみられる。
- ・第三期行動計画策定前と現在の比較：分布に大きな変化はみられない。
- ・全窒素 年間値 5年平均※



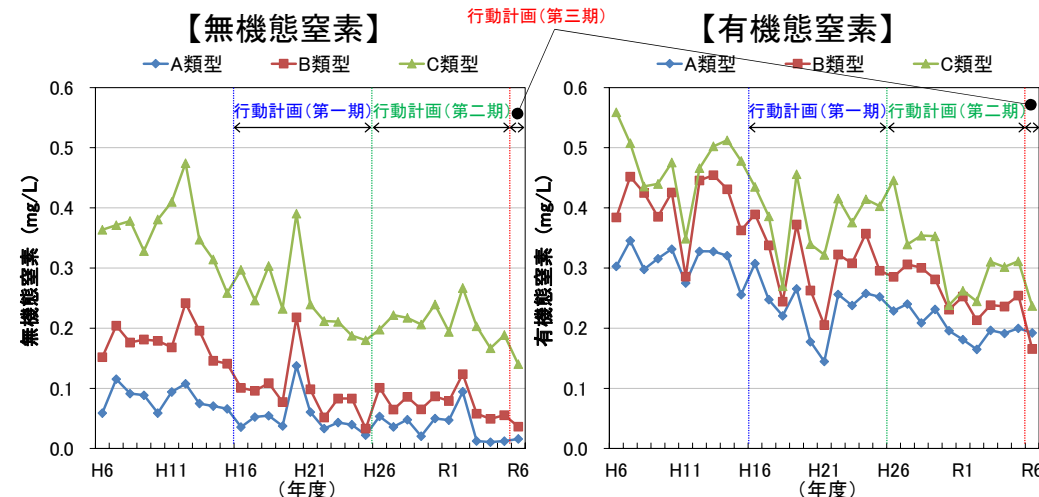
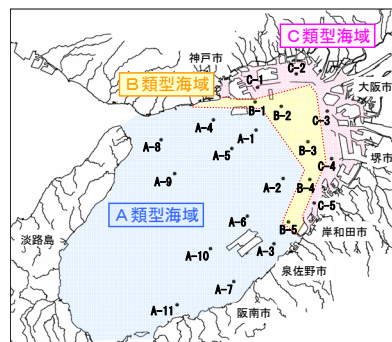
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

資料) 公共用水域水質測定結果より作成

・形態別窒素の経年変化(年度平均値)

● 形態別窒素

- ・年による変動がみられるものの、第三期計画策定(令和6年度)以降も、無機態窒素及び有機態窒素は減少傾向がみられる。



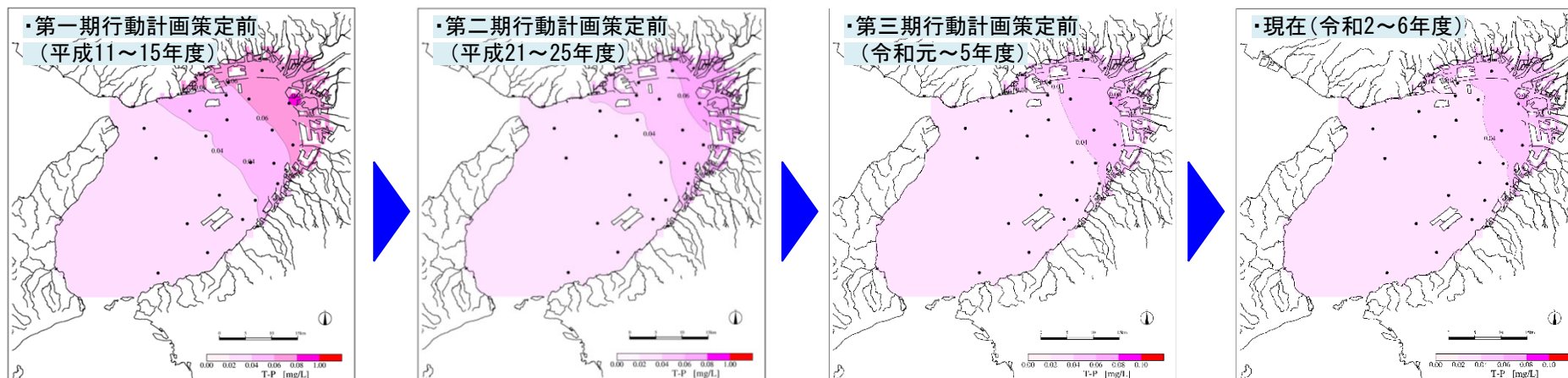
資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成

4. 燐

【公共用水域水質測定結果による5年平均※】

● 全燐

- ・第一期、第二期行動計画策定前と現在の比較：全域で低下傾向がみられる。
- ・第三期行動計画策定前と現在の比較：分布に大きな変化はみられない。
- ・全燐 年間値 5年平均※



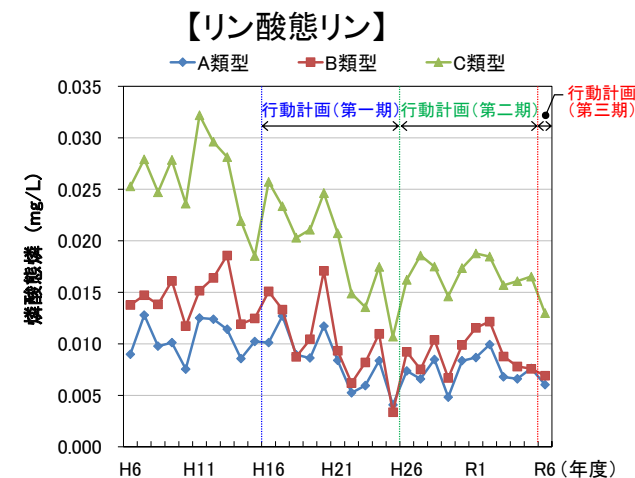
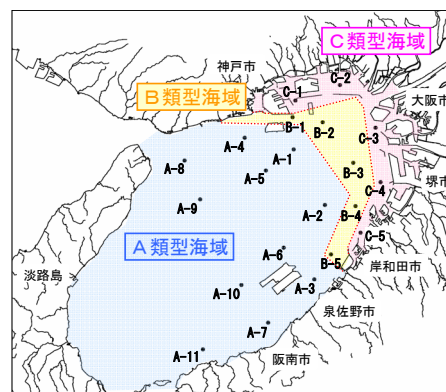
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

資料) 公共用水域水質測定結果より作成

・ 形態別燐の経年変化(年度平均値)

● 形態別燐

- ・ 無機態燐であるリン酸態リンは、平成12年頃から変動しながら減少傾向がみられる。
- ・ 第二期行動計画策定（平成26年度）以降は概ね横ばい傾向にある。

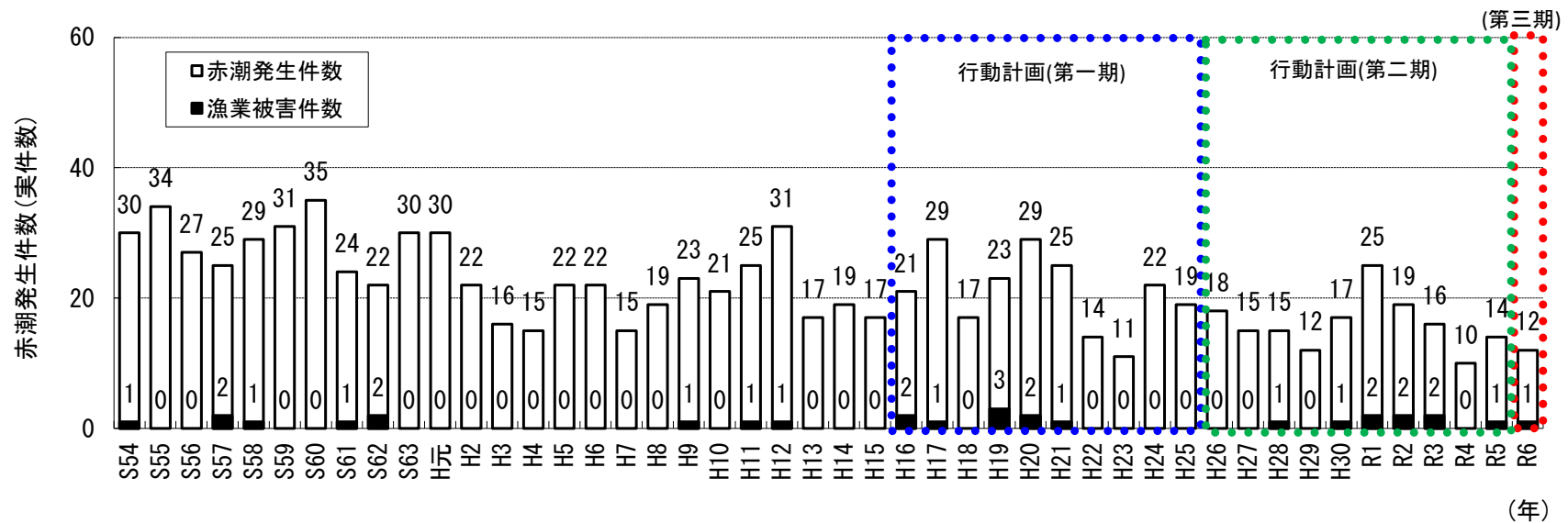


資料) 大阪府公共用水域水質測定結果より作成

5. 赤潮の発生状況

- 第一期行動計画期間（平成16～25年）中の赤潮発生数は11～29件の範囲、第二期行動計画策定（平成26年～令和5年）以降は10～25件の範囲で推移していた。
- 令和6年には赤潮が12件発生し、漁業被害の報告が仮屋漁港で1件あった。

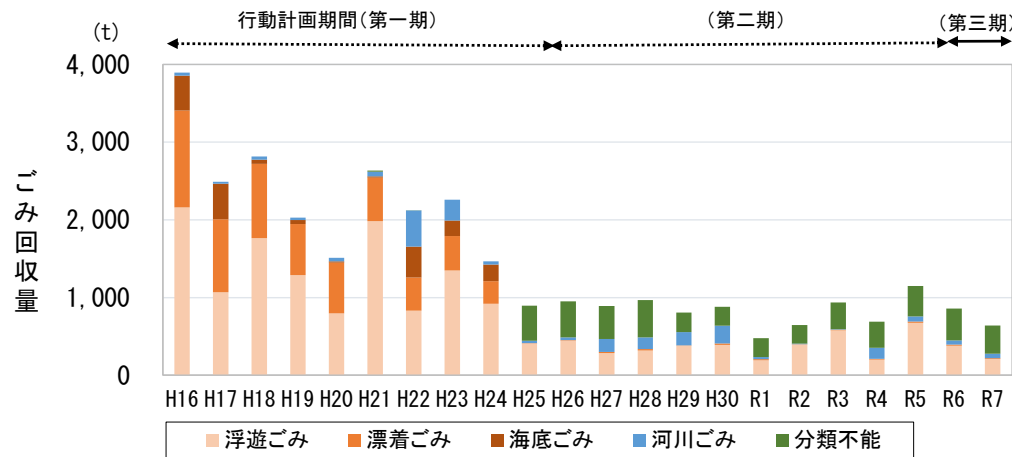
経年変化（大阪湾における赤潮の発生件数）



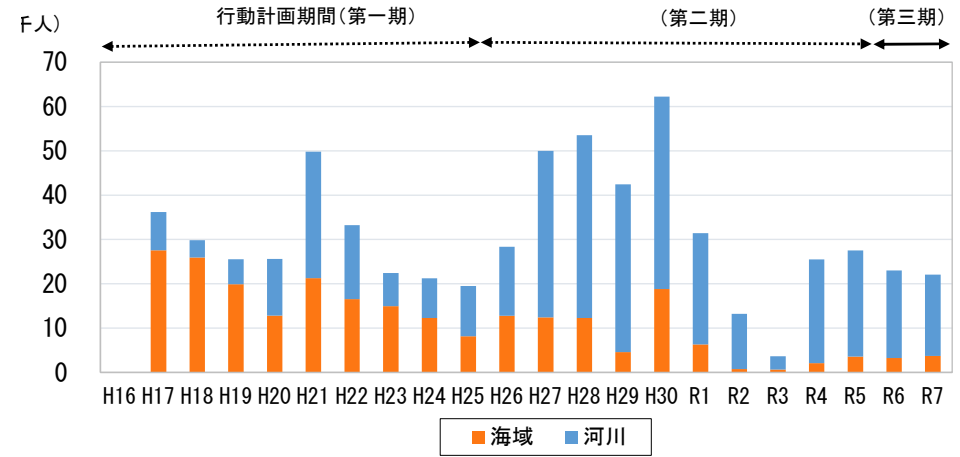
資料) 瀬戸内海の赤潮より作成

6. ごみ回収量・回収活動参加者数

- ごみ回収量：641.4 t（R7見込み）
 - ごみ回収活動参加者数：22,074人（R7見込み）
- ⇒さまざまな機関、団体等により、ごみ回収が実施されている。



【ごみ回収量の経年変化】



※平成16年度は参加者数を把握していない。

【ごみ回収活動参加者数の経年変化】

7. ごみ削減・分別、支援等の各種対策の実施状況

- 回収したごみの分別、掃除道具や軍手等の貸与、ごみ袋等の配布、経費補助や保険等への加入等を実施。

豊かな「魚庭の海」に 向けた取り組みの状況

豊かな「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その1）

取り組みの状況

1. 栄養塩類偏在対策の推進

- 海底耕耘、ため池の池干し(かいぼり)、海域への施肥を実施。

2. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備、維持管理

- 神戸港において緩傾斜護岸の整備及び海藻の付着が期待出来る被覆ブロックを設置し、海藻類調査を継続実施。

3. ブルーカーボン生態系の拡大

- ブルーカーボンクレジットの継続・申請、ブルーカーボン創出の実施。

4. 窪地埋め戻し

- 港湾及び河川からの土砂を用いて阪南2区沖、阪南4・6区沖の窪地の埋め戻しを実施。

5. 漁場整備

- 増殖場(藻場)の造成を実施

6. 希少生物等の保全

- 大阪湾生き物一斉調査の「大阪湾海岸生物ウェルカムリスト」を活用し希少生物を把握。

7. 生物多様性保全に貢献する技術や取り組み等の支援

- 応援宣言の登録促進及び宣言した企業・団体に対してサポートを継続実施。

8. モニタリングの継続

- 大阪湾生き物一斉調査、漁場環境調査等の生息状況のモニタリングを実施。



豊かな「魚庭の海」に向けた取り組みの状況（まとめ） （その2）

取り組みの評価結果

※ <>内は評価指標値の目安

※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用

1. 底層DO < 5 mg/L以上 > ※

- 湾奥部：夏季に 5 mg/L未満の海域がみられる。
- 湾口部～湾央部：夏季に概ね 5 mg/L以上。

2. 底生生物（種類数・個体数）

- 湾口部・湾央部で**増加傾向**を示している地点がみられる。

3. 海岸生物（確認された種、数、ウェルカムリスト）[大阪湾生き物一斉調査の結果]

- **612種**（うち、**貴重種66種**）を確認。ウェルカムリスト該当種は**58種**を確認
- 河口～内湾型や内湾～外海型の生物の出現頻度が高かった。

4. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸の整備面積・延長

- 藻場の整備面積：**累積43.4ha**、干潟の整備面積：**累積1.3ha**
浅場の整備面積：**累積2.4ha**、緩傾斜護岸の整備延長：**累積4.8km**

取り組みの成果

- 湾奥部では、依然として夏季に底生生物の生息に適さない海域がみられ、湾口部・湾央部に比べて底生生物の種類数も少ないため、今後のさらなる取り組み推進が必要である。
- 湾口部・湾央部では、生物生息に十分な底層DOが確保されている海域が多く、底生生物について改善傾向がみられる海域があるものの、さらなる取り組みを推進することが望ましい。

1. 栄養塩類偏在対策の推進

- 小型漁船が専用の桁を曳航し海底を耕耘する取り組みを実施。〔漁業者組織（神戸市、洲本市、淡路市）〕
- ため池の池干し、海域へ有機肥料の投入、下水処理施設における栄養塩類管理運転を実施。〔兵庫県、漁業者組織〕
- 大阪湾南部の栄養塩濃度の管理方法を検討。〔大阪府〕

2. 藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備、維持管理

- 堺2区人工干潟の完成に向け土砂投入の調整を図る。〔大阪府〕
- 「大阪府海域ブルーカーボン生態系ビジョン～藻場の創造・保全による豊かな魚庭(なにわ)の海へ」に基づき増殖場（藻場）の造成を実施中。〔大阪府〕
- 漁協、地元企業、地元小学校・NPO等の協働による「兵庫運河の自然を再生する事業」を継続実施。〔兵庫県〕
- 阪南2区人工干潟の生物調査を継続実施。〔ちきりアイランドまちづくり会〕
- 神戸港において生物生息機能の創出に向けた検討を実施し、緩傾斜護岸に海藻の付着が期待出来る被覆ブロックを設置。〔近畿地方整備局〕



主な藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備実施場所

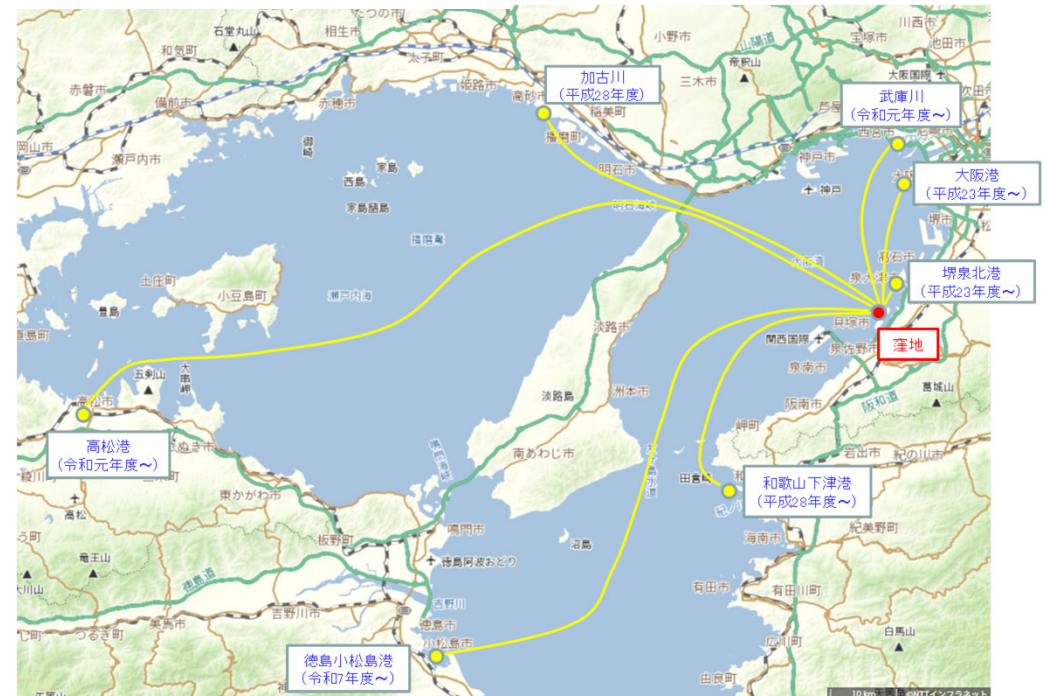
3. ブルーカーボン生態系の拡大

- 「神戸港CNP形成計画」に基づくブルーカーボンクレジット化の継続、藻場拡大の検討。 [神戸市]
- 大阪“みなと”（大阪港・堺泉北港・阪南港）におけるブルーカーボン創出の実施。 [大阪港湾局]
- ノリ養殖のブルーカーボンクレジットの申請等を実施。 [兵庫県]

4. 窪地埋め戻し

- 阪南2区沖窪地を対象に本格的に埋め戻しの着工を開始。令和3年度からは阪南4・6区沖窪地の埋め戻しも着工。 [近畿地方整備局港湾空港部]
- 学識経験者を含めた関係者等による検討会を設置し、技術的検討を実施。 [近畿地方整備局港湾空港部]
- 令和7年度は、阪南2区沖窪地に、大阪港等の浚渫土砂及び武庫川の河川浚渫土砂、阪南4・6区沖窪地に、和歌山下津港および四国の小松島港の浚渫土砂の投入を実施。 [近畿地方整備局港湾空港部]

広域的な土砂の受け入れ実施



5. 漁場整備

- 令和4年1月に策定した「大阪府海域ブルーカーボン生態系ビジョン～藻場の創造・保全による豊かな魚庭(なにわ)の海へ」に基づき増殖場（藻場）の造成を継続。〔大阪府〕

6. 希少生物等の保全

- 5月に実施した大阪湾生き物一斉調査にて、「大阪湾海岸生物ウェルカムリスト」を活用し希少生物を把握。〔神戸港湾空港技術調査事務所〕

7. 生物多様性保全に貢献する技術や取り組み等の支援

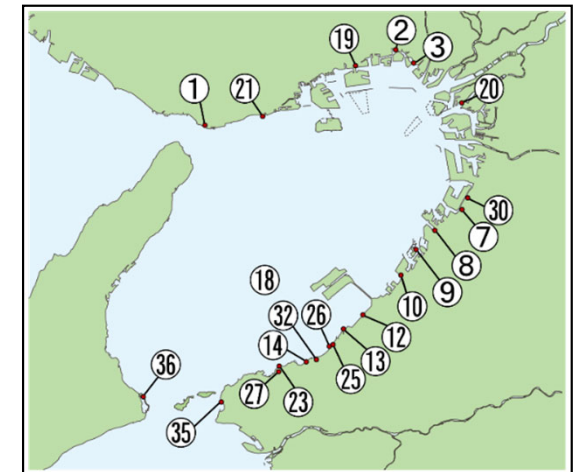
- 応援宣言の登録促進及び宣言した企業・団体に対してサポートを継続実施。〔大阪府〕

8. モニタリングの継続

- 大阪湾生き物一斉調査を22地点で1,115人が参加して実施。〔大阪湾環境再生連絡会〕
- 漁場環境等の調査を継続実施。〔(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所〕
- 重要水族の資源生態把握調査等を継続実施。〔兵庫県〕
- 漁場環境情報システムで水温等の環境情報を毎日提供。〔兵庫県〕
- 10地点で赤潮予察調査を実施し、ホームページで情報提供〔兵庫県〕
- 小中学校等と協働した水生生物調査を実施。〔近畿地方整備局〕
- 廃棄物最終処分場周辺海域のモニタリング調査を実施。〔大阪湾広域臨海環境整備センター〕



大阪湾生き物一斉調査の様子
(せんなん里海公園)



大阪湾生き物一斉調査の調査地点
(令和7年度)

9. その他

- ウェブサイト「里海ネット」の運営継続、内容の充実。[環境省]
- 大阪湾の水産資源を増やすため、ヒラメ、キジハタ、アカガイ、トラフグ等の種苗生産・放流を実施。[大阪府、大阪府漁業振興基金]
- 水産資源の維持増大のため、マダイ、ヒラメ、オニオコゼ、マコガレイ、キジハタ、ガザミ等のほか、漁場改善に寄与することが期待されるマナマコとクマエビを豊かな海再生種苗として生産・放流を実施。[兵庫県、神戸市、洲本市、淡路市、漁業関係団体]
- 大阪湾沿岸部で水質調査結果の解析、深掘り跡での水質・底質・底生生物調査を実施。[神戸港湾空港技術調査事務所]



稚魚放流

豊かな「魚庭の海」に 向けた取り組みの評価結果

1. 栄養塩類偏在対策の実施状況

- 神戸市、淡路市、洲本市において、海底耕耘、ため池の池干し（かいぼり）、施肥が実施され、必要に応じて実施箇所が追加されている。
 - ✓ 海底耕耘は神戸市、淡路市、洲本市の7組織（令和6年度）から8組織（令和7年度）に追加した。
 - ✓ ため池の池干し（かいぼり）は淡路市の2箇所で継続的に実施した。
 - ✓ 施肥は神戸市、淡路市、洲本市の5箇所（令和6年度）から6箇所（令和7年度）に実施箇所を追加した。

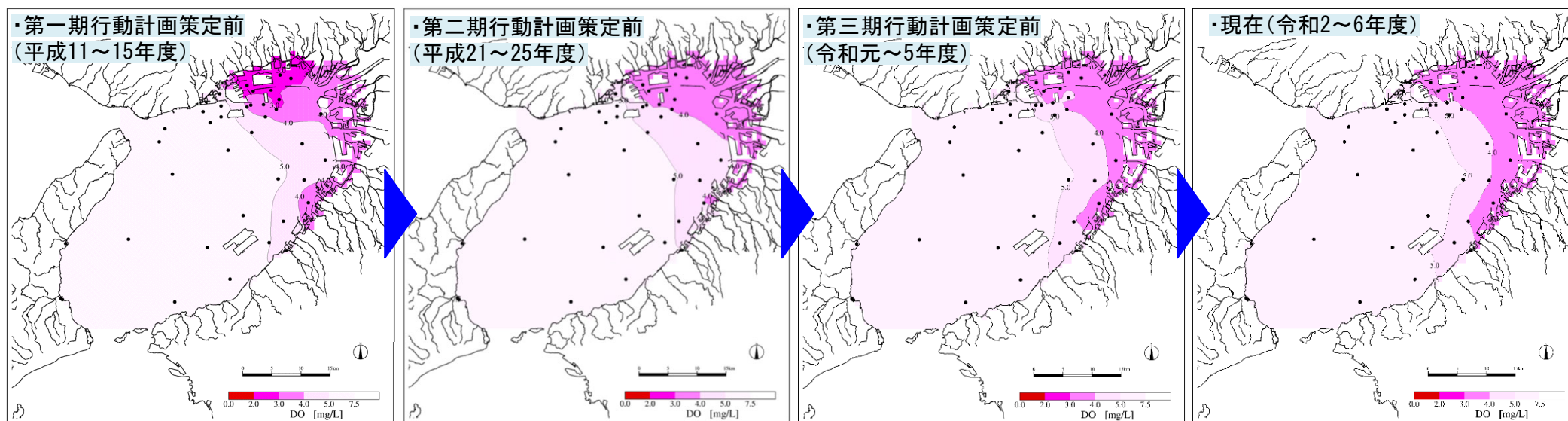
2. 底層DO

【公共用水域水質測定結果による夏季(6~8月)5年平均※】

- 第一期行動計画策定前と現在の比較
湾奥部で、夏季に依然として5mg/L未満の海域がみられるが、貧酸素の目安となる3mg/L未満の海域はほとんどみられなくなっている。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較
湾口部、湾央部は夏季においても生物生息に十分な5mg/L以上を概ね維持しているが、湾奥部は依然として5mg/L未満の海域がみられる。
- 第三期行動計画策定前と現在の比較: 分布に大きな変化はみられない。

⇒特に湾奥部において、今後取り組みを推進することが望まれる。

・夏季(6~8月)5年平均※



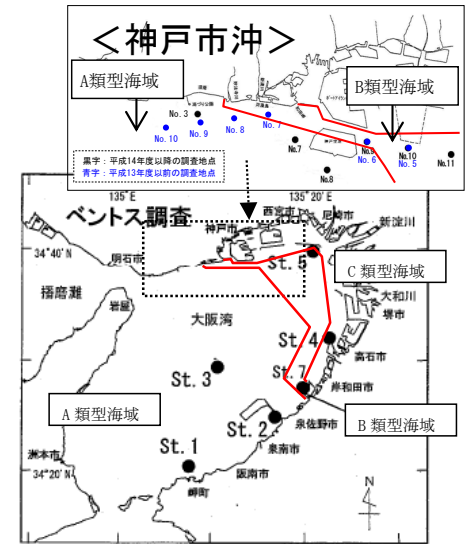
資料) 公共用水域水質測定結果より作成

※底層DOのデータは大阪府、兵庫県ともに環境基準に合わせて海底から1mで測定しているデータを使用している。

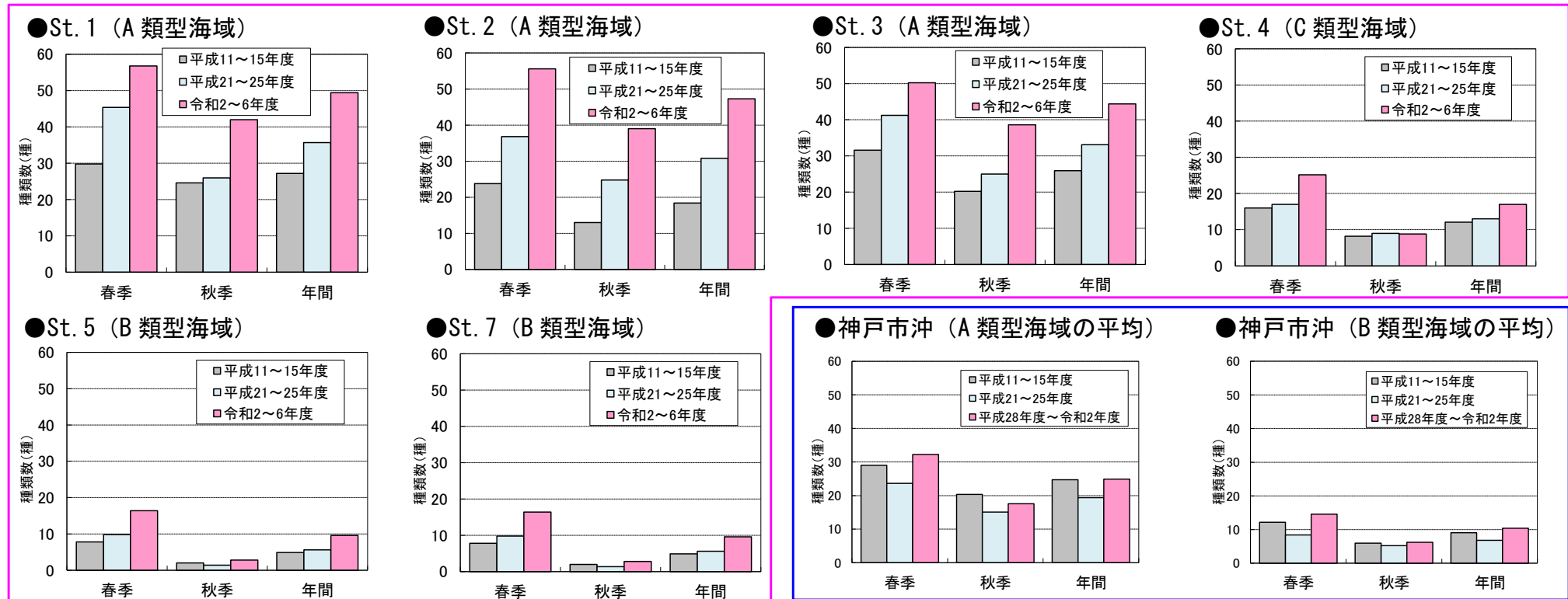
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

3. 底生生物(種類数)

- 湾奥部(B・C類型海域)で少なく、湾央～湾口部(A類型海域)が多い。
- 第一期行動計画策定前と現在の比較
湾央～湾口部 (A類型海域) で増加がみられる。
- 第二期行動計画策定前と現在の比較
湾央～湾口部 (A類型海域) で増加がみられる。



変化図(底生生物・種類数)



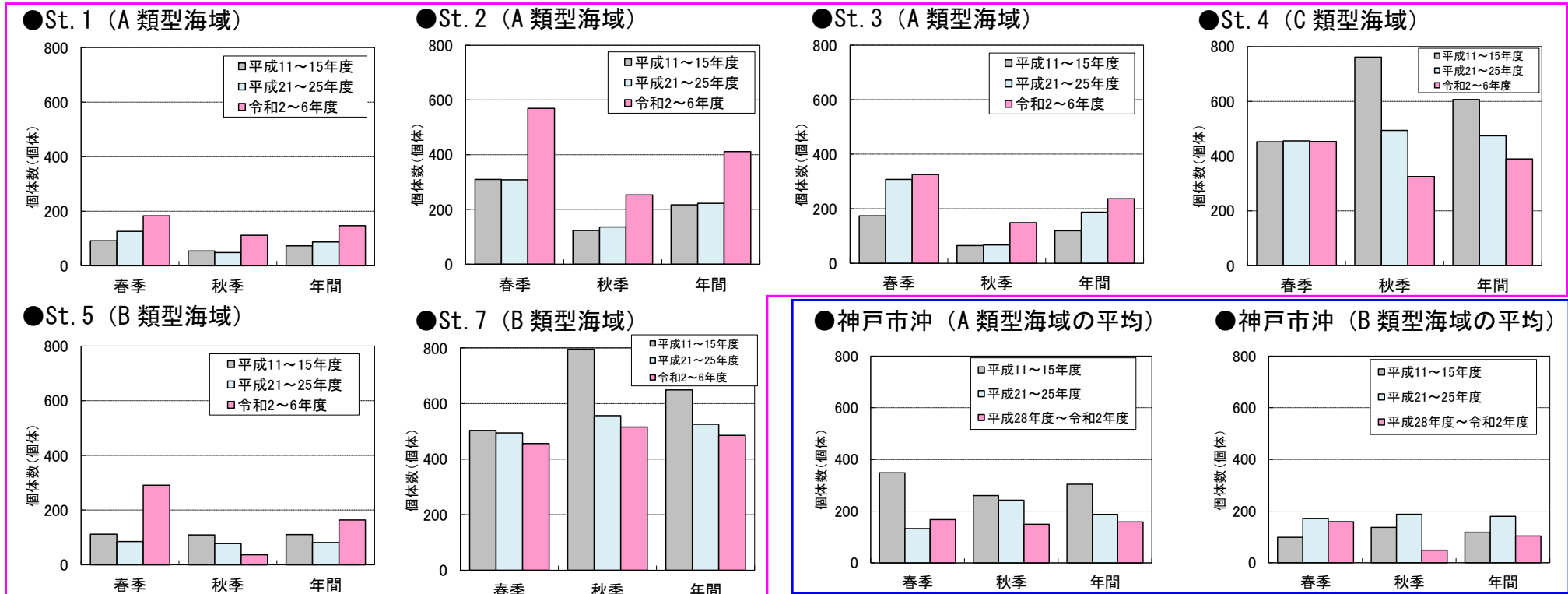
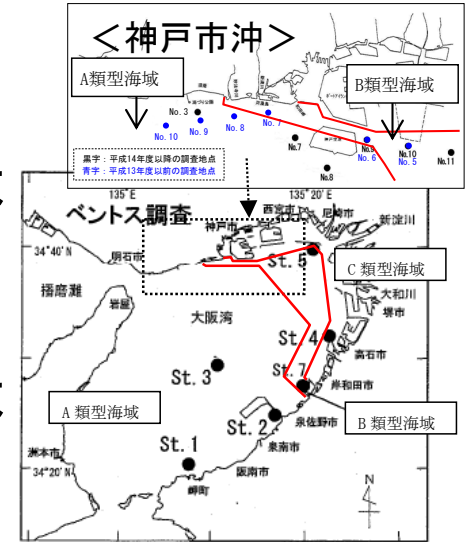
資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 ((地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター、環境水質 海域の水生生物調査(神戸市環境局)

※兵庫県では平成29年度、令和元年度は底生生物調査を実施していない。令和2年度で調査を終了した。

※神戸市沖：約0.1~0.13m²(H21、H25、H27~ H28、H30は約0.15m²)当たりの種類数、大阪府域：0.1m²当たりの種類数

3. 底生生物(個体数)

- 湾奥部(B・C類型海域)の東側(St.4、7)で個体数が多い。
 - 第一期行動計画策定前と現在の比較
大阪府域の湾央～湾口部(A類型海域)では横ばいまたはやや増加傾向がみられる。
 - 第二期行動計画策定前と現在の比較
大阪府域の湾央～湾口部(A類型海域)では横ばいまたはやや増加傾向がみられる。
- ・変化図(底生生物・個体数)



資料) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター、環境水質 海域の水生生物調査(神戸市環境局)

※兵庫県では平成29年度、令和元年度は底生生物調査を実施していない。令和2年度で調査を終了した。

※神戸市沖: 約0.1~0.13m²(H21、H25、H27~H28、H30は約0.15m²)当たりの種類数、大阪府域: 0.1m²当たりの種類数

4. ブルーカーボン拡大の取り組み状況、各種制度等による認証状況

- 令和7年度Jブルークレジット®認証では、大阪湾において新たに2件が承認された。

5. 民有地護岸等を活用した生物生息場確保の促進

- 地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」の認定において、大阪湾で登録された民有地護岸等はなかった。

6. 希少生物等の保全等の実施状況

- 第18回大阪湾生き物一斉調査は5月24日を中心に大阪湾の沿岸部の21地点（スナメリ調査を除く）で実施され、大阪湾海岸生物ウェルカムリストについては、全地点で58種（Aランク：エナシダジア等2種、Bランク：イボウミニナ等15種、Cランク：ハクセンシオマネキ等41種）が確認された。

7. 自然を活かした地域づくりの実施状況

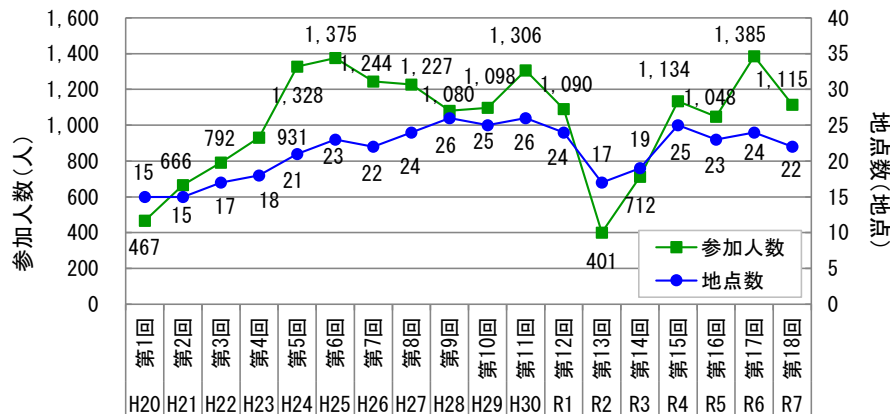
- 地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」の認定において、大阪湾では「いきもの育む兵庫運河環境保全活動実施計画」等、大阪湾の集水域では「おおさか環境水研本部・環境と食農の技術センター保全活動実施計画」等、合計36件が登録された。

8. 生物多様性に保全に貢献する技術等の支援状況

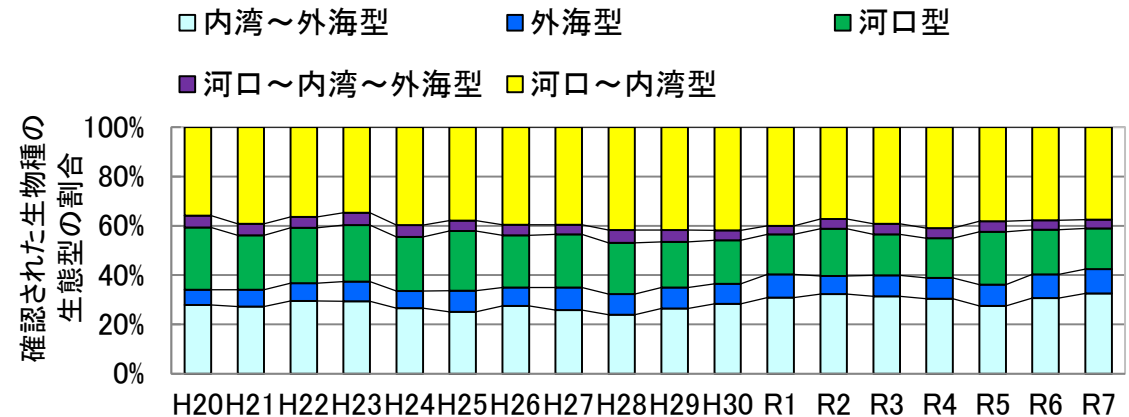
- 大阪府において、応援宣言の登録促進及び宣言した企業・団体に対してサポートが継続して実施されている。

9. 海岸生物、ウェルカムリスト

- 確認した生物は612種（水生生物群468種、陸生生物群144種）、その内貴重種は**66種**。
- 全体的に内湾～外海型や河口～内湾型の種の出現頻度が高かった。内湾～外海型のイボニシは17地点中16地点で確認され、次いで、タマキビガイ、アラレタマキビガイ、河口～内湾型の生物ではユビナガホンヤドカリが15地点で確認された。
- 大阪湾海岸生物ウェルカムリストについては、全地点で58種（Aランク：2種、Bランク：15種、Cランク：41種）が確認された。



注)スナメリ調査の1地点を含む。



注)第1回の調査以降実施していない地点を除く。

10. 藻場、干潟、浅場の整備面積・緩傾斜護岸の整備延長

【藻場】

● 累積整備面積：43.4ha

【干潟】

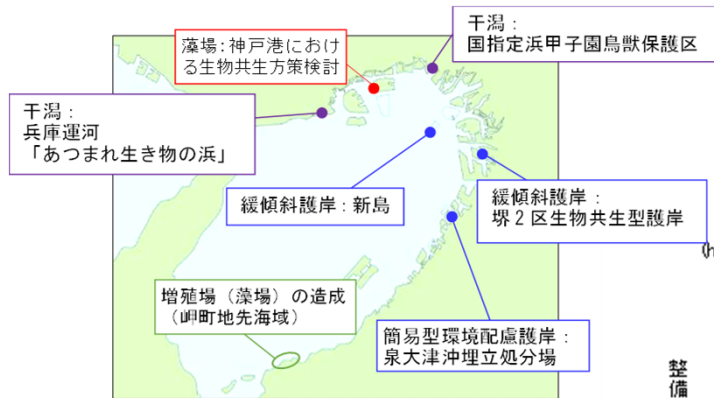
● 累積整備面積：1.3ha

【浅場】

● 累積整備面積：2.4ha

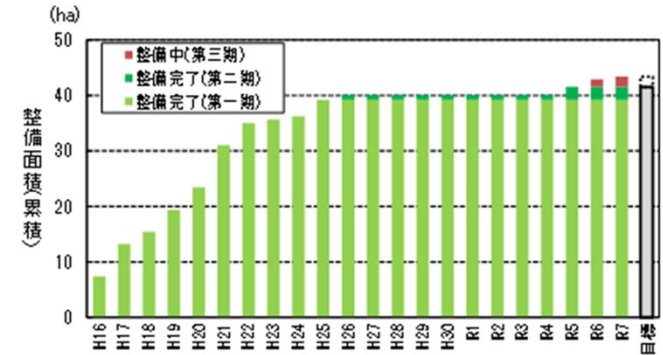
【緩傾斜護岸】

● 累積整備延長：4.8km

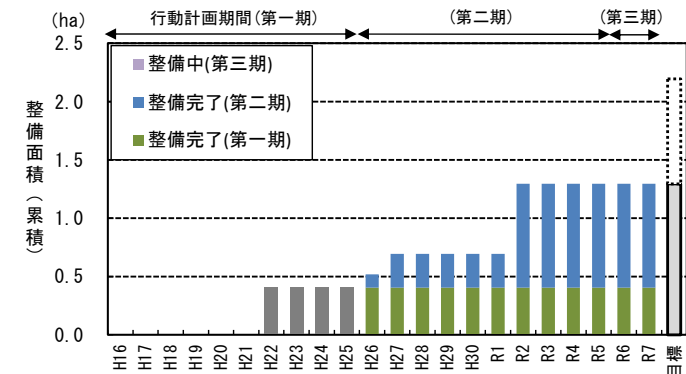


大阪湾再生行動計画策定以降の整備実施場所

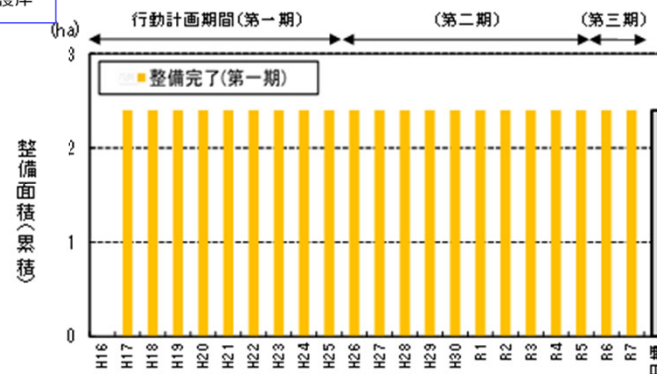
【藻場】(累積)



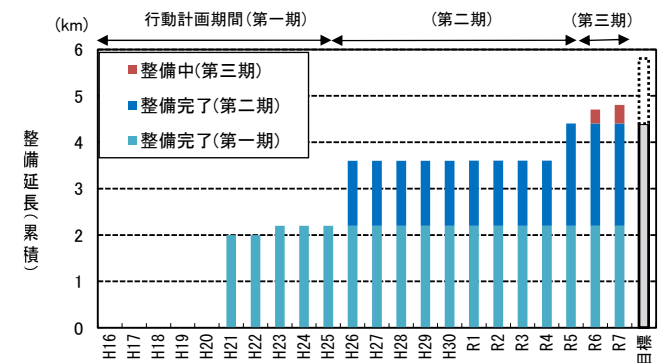
【干潟】(累積)



【浅場】(累積)



【緩傾斜護岸】(累積)



親しみやすい「魚庭の海」に 向けた取り組みの状況

親しみやすい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況(まとめ) (その1)

取り組みの状況

1. 砂浜、親水護岸・親水緑地等の整備

- 舞洲と夢洲の連続した海岸線に砂浜や磯場、干潟の造成、海辺の緑化を継続実施。
- ポートアイランド(第2期)西緑地・府営りんくう公園の整備、堺第7-3区共生森づくり事業を実施。

2. イベントの開催(海の危なさを知るものも含む)

- 兵庫運河の人工干潟や尼崎運河の水質浄化施設など、親水空間を活用した環境学習イベント及びせんなん里海公園での生物観察、稚魚放流等のイベントを継続実施。

3. 観光漁業等の実施の支援

- 観光漁業や青空市場・朝市等の取り組みについての情報発信。

4. 各施策への多様な主体や世代の参画促進等

- 琵琶湖、大和川、尼崎運河等で多様な主体や世代を対象としたイベント等を開催。
- 若者たちが主体的に参画できる場と機会の創出。

5. 魅力的な景観の情報発信

- せんなん里海公園で撮影された写真を用いたフォトコンテスト等の実施。



親しみやすい「魚庭の海」に向けた取り組みの状況(まとめ) (その2)

取り組みの評価結果

1. 砂浜・親水護岸・親水緑地の整備面積・延長

- 親水護岸の整備延長: **累積6.0km**
- 親水緑地の整備面積: **累積82.6ha**

2. 親水施設への訪問者数

- 海水浴場や親水公園等多くの施設で多くの訪問者があった。

3. イベントの開催回数、参加者数、開催状況

- 出前講座等の環境学習や海づくり大会等のイベント、森林整備・清掃活動等の多彩なイベントを開催し、多くの参加があった。

4. 親水活動に影響を与える事項の発生状況(貝毒等)

- 大阪府側の海域で貝毒が確認されたものの、大規模な油の流出などはなかった。

5. 観光漁業等の実施の支援

- HPやSNS等で、観光漁業や青空市場・朝市等の取り組みの情報を発信。

6. 各施策への多様な主体や世代の参画促進

- HPやSNS等で、清掃活動や環境学習等の取り組みの情報を発信。

取り組みの成果

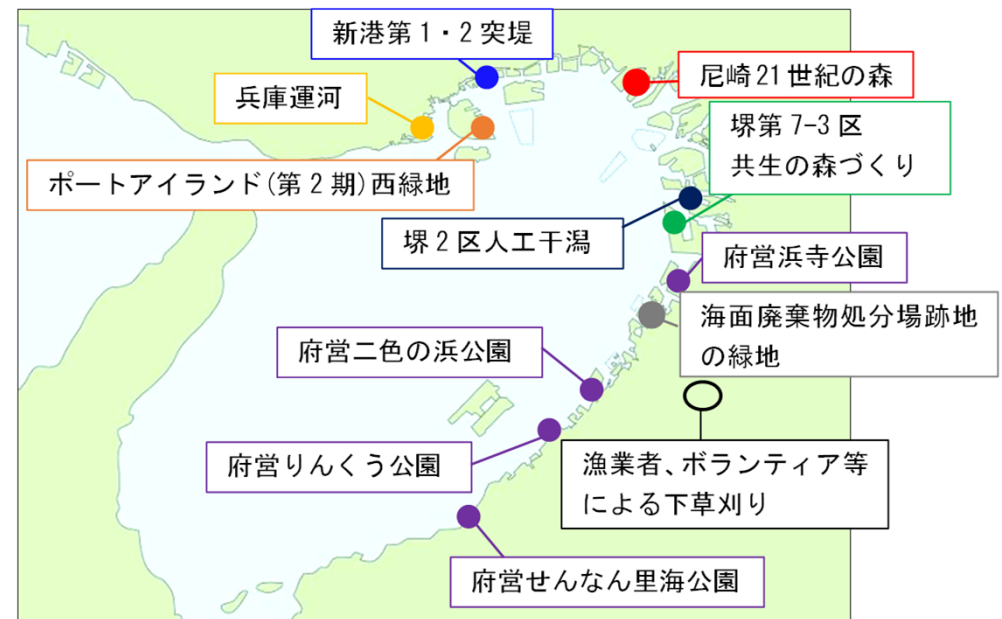
- 親水施設等で開催した多彩なイベントに多数の参加を得るなど、一定の成果を得た。
- 今後も、パブリックアクセスを踏まえた魅力的な親水施設の整備、多彩なイベントの実施、及び市民・企業、若者等が積極的に参画できる取り組みの推進が望まれる。

1. 砂浜、親水護岸・親水緑地等の整備

- 舞洲と夢洲の連続した海岸線に砂浜や磯場、干潟の造成、海辺の緑化の継続実施。[大阪市]
- 尼崎臨海地域の緑化(尼崎21世紀の森)の推進。[兵庫県]
- ポートアイランド(第2期)西緑地の整備の実施。[神戸市]
- 府営りんくう公園の整備を実施。[大阪府]
- 堺第7-3区共生森づくり事業を実施。[大阪府]
- 兵庫運河の新たな活用や周辺の活性化のための設計整備を実施。[神戸市]



整備実施場所



主な親水緑地の整備等実施場所

2. イベントの開催（海の危なさを知るものも含む）

- 四大湾（東京湾、伊勢湾、大阪湾、広島湾）の海の再生プロジェクトの成果や課題、教訓などを基に、全国の閉鎖性水域の再生プロジェクトに展開させるとともに、全国の海の環境再生につながる取り組みの情報共有・情報発信を行うことを目的とした『第20回海の再生全国会議』を中国地方にて開催。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 岸和田市港緑町（南海浪切ホール）において、魚庭（なにわ）の海づくり大会を開催。[魚庭の海づくり実行委員会（大阪府漁連、大阪府、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所）]
- 尼崎運河の水質浄化施設で市内の小中高生などを対象に環境学習会を継続実施。[兵庫県、尼崎市]
- 市民によるアコヤ貝育成を通じた水質保全活動に対する、神戸市の技術面等からの支援を継続実施。[兵庫運河・真珠貝プロジェクト]
- せんなん里海公園において、淡輪小学校4年生の生徒を対象に、生物や海岸についての講演、生物観察、稚魚放流等のイベントを継続実施。[大阪府、岬町教育委員会、（公財）大阪府漁業振興基金、（公財）公園協会、関西大学]



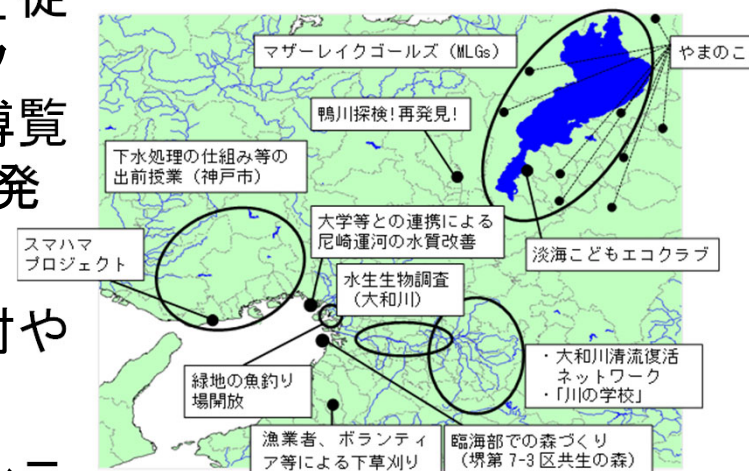
主なイベントの実施場所

3. 観光漁業等の実施の支援

- 漁業協同組合が運営する観光漁業や青空市場・朝市等の取り組みをHPやSNS等で情報発信。 [大阪府]

4. 各施策への多様な主体や世代の参画促進等

- 琵琶湖版 SDGs である「マザーレイクゴールズ (MLGs)」を推進するためにワークショップ等の事業を実施し、多様な主体とともに琵琶湖の環境保全を促進。また、大阪・関西万博「滋賀魅力体験ウィーク～Discover Shiga, Go Lake Biwa～」および万博博覧会協会主催「TEAM EXPO」でのブース出展等の情報発信を実施。 [滋賀県、マザーレイクゴールズ推進委員会]
- 「大和川清流復活ネットワーク」において、市町村や民間団体との情報共有を継続実施。 [奈良県]
- 緑地の一部を魚釣り場として開放し、ジュニア・シニアを対象に釣り教室を開催。 [大阪市]
- 大学等との連携による尼崎運河の水環境改善に係る実験・環境学習会を継続実施。 [徳島大学、兵庫県、尼崎市]



主な市民や企業の取り組みへの参画促進、取り組みの支援実施場所

5. 魅力的な景観の情報発信

- 「せんなん里海公園の魅力フォト」として、公園内で撮影された写真を4月～10月末まで募集しビバレー玄関ホールに展示。大阪湾をバックに魅力ある写真が多数応募された。 [せんなん里海公園事務所]

親しみやすい「魚庭の海」に 向けた取り組みの評価結果

1. 砂浜・親水護岸の整備延長・親水緑地の整備面積

【砂浜】

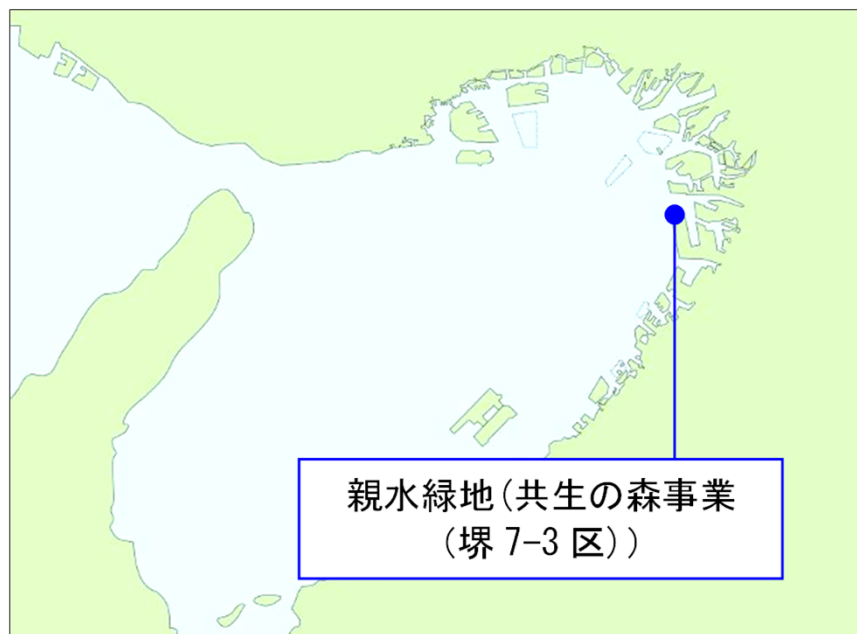
● 累積整備延長：0.2km

【親水護岸】

● 累積整備延長：6.0km

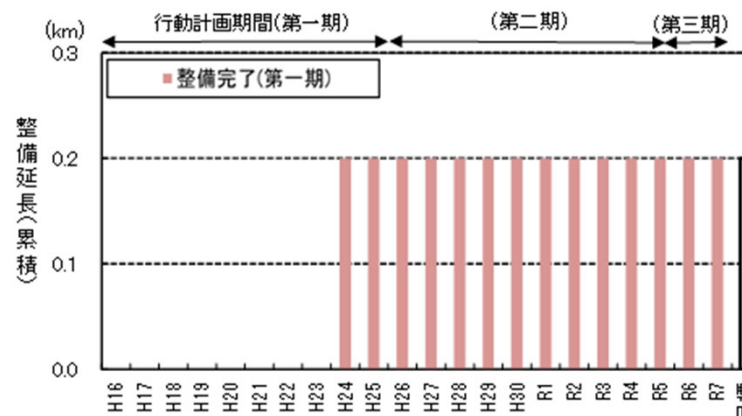
【親水緑地】

● 累積整備面積：82.6ha

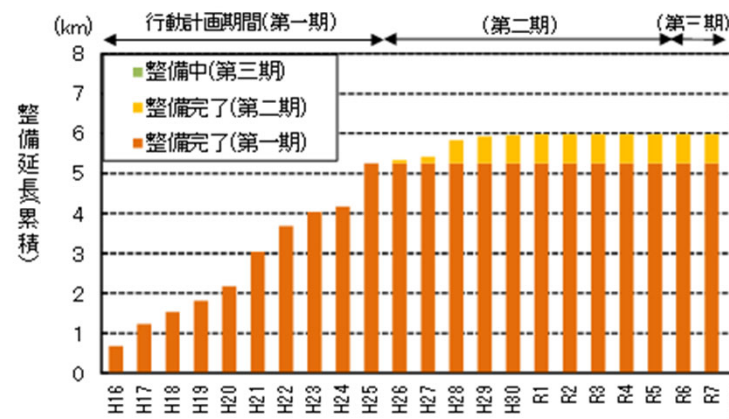


令和7年度の整備実施場所

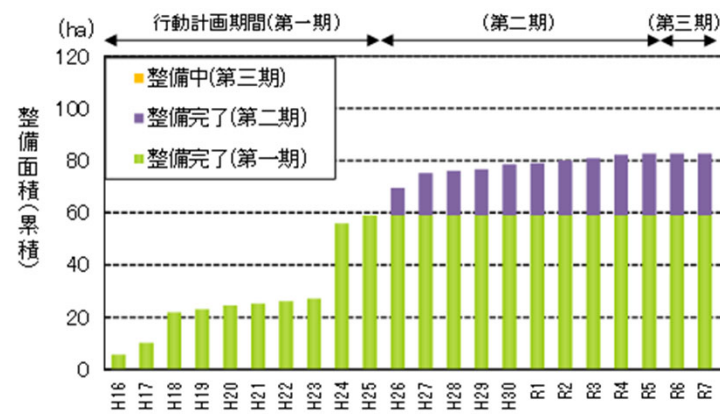
【砂浜】(累積整備延長)



【親水護岸】(累積整備延長)



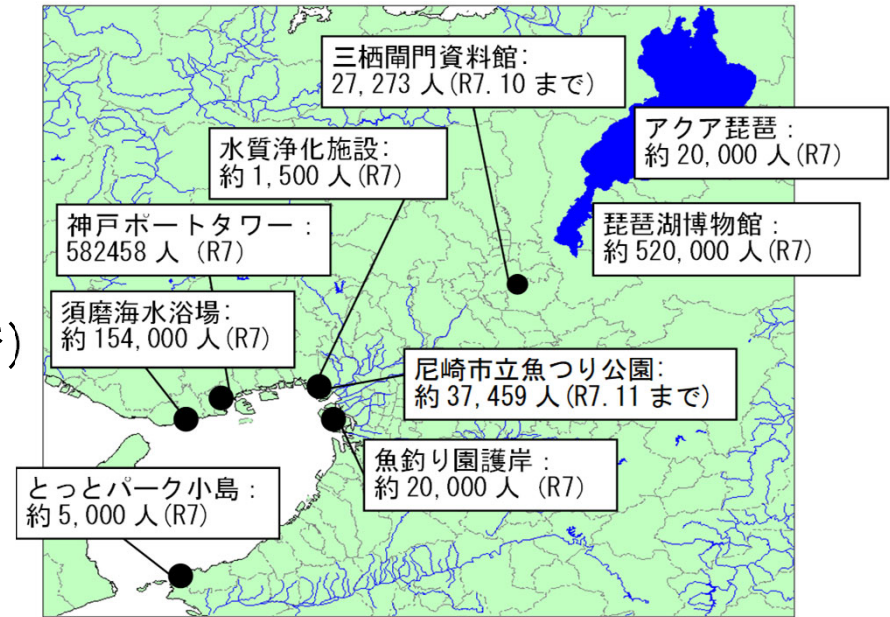
【親水緑地】(累積整備面積)



2. 親水施設への訪問者数

【親水施設への訪問状況】

- 須磨海水浴場：約154,000人 (R7)
- 神戸ポートタワー：582,458人 (R7)
- 水質浄化施設：約1,500人 (R7)
- 尼崎市立魚釣り公園：約37,459人 (R7. 11まで)
- 魚釣り園護岸：約20,000人 (R7)
- とっとパーク小島：約5,000人 (R7)

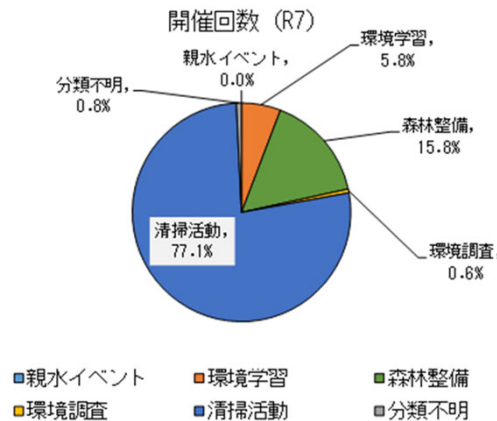


親水施設への訪問者数

3. イベントの開催回数、参加者数、開催状況

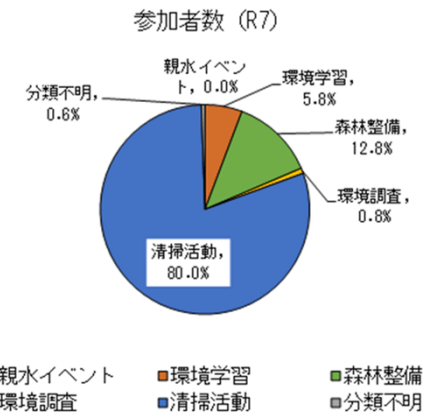
- 清掃活動イベントが多く、全体の開催回数、参加者数の約8割を占めていた。

項目	R7
親水イベント	0
環境学習	389
森林整備	1059
環境調査	39
清掃活動	5176
分類不明	51
合計	6714



イベントの開催回数

項目	R7
親水イベント	0
環境学習	19597
森林整備	43680
環境調査	2835
清掃活動	272653
分類不明	1950
合計	340715



イベントの参加者数

※イベントの開催回数・参加者数は見込み値を含む

4. 親水活動に影響を与える事項の発生状況（貝毒等）

- 令和7年度は、大阪府側の海域において、4～6月にかけて貝毒が発生した。アカガイ、トリガイ及びしじみについて、国の規制値（4マウスユニット/g）超えが7件、出荷の自主規制が6件あった。
- 親水活動に影響を与えるような大規模な油の流出などはなかった。

5. 観光漁業等の実施の支援状況

- HPやSNS等で、漁業協同組合が運営する観光漁業や青空市場・朝市等の取り組みの情報を発信している。

6. 各施策への多様な主体や世代の参画促進状況

- 大阪湾の陸域及・河川及び大阪湾の沿岸域などにおいて様々な施策が実施され、幅広い世代が参加できるようになっている。イベントの内容によっては、小学生等を対象としたものもあり、若い世代の参画促進が図られている。

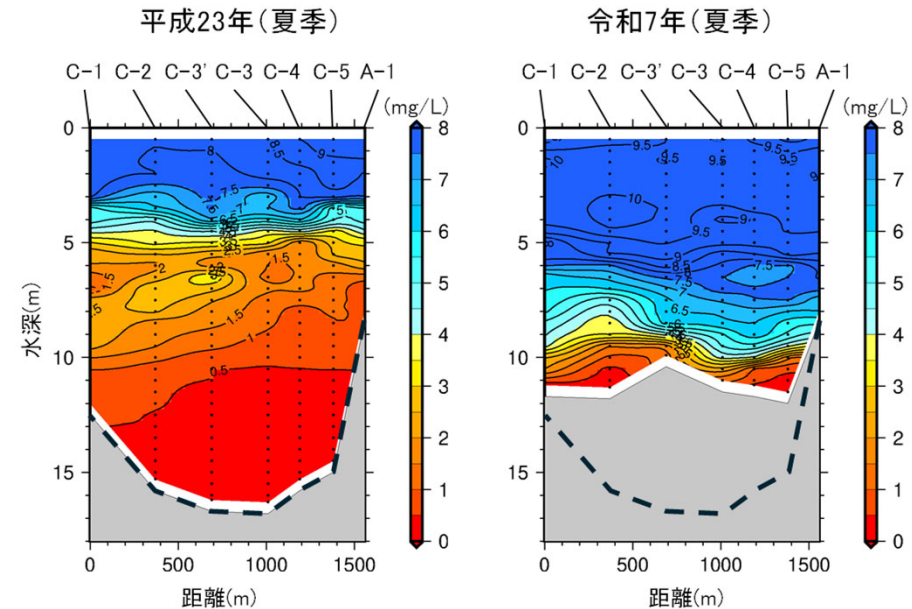
7. 魅力的な景観の情報発信の状況

- 「せんなん里海公園の魅力フォト」として、公園内で撮影された写真を4月～10月末まで募集しビバレー玄関ホールに展示。大阪湾をバックに魅力ある写真が多数応募された。

Ⅱ 重点的な取り組みの成果

1. 湾奥部における底層DOの改善対策強化

- 大阪湾には大規模な窪地が21箇所あり、底層水の貧酸素化が進行している。窪地による周辺海域の貧酸素化を解消するため、引き続き阪南2区、4・6区沖への土砂投入による窪地修復を実施した。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 阪南2区沖窪地に、大阪港の発生土等及び武庫川の河川土砂、阪南4・6区沖窪地に、和歌山下津港および四国の小松島港の発生土の投入を実施した。[近畿地方整備局港湾空港部]
- 阪南2区への土砂投入は令和7年度に終了予定。[近畿地方整備局港湾空港部]



※点線は平成23年夏季調査の水深を示す。

平成23年度は8月調査、令和7年度は8月調査結果に気象の影響がみられたため、7月調査の結果を示す。

窪地埋め戻しによる底層DOの環境改善

2. 栄養塩類偏在対策強化

- 大阪湾の湾南部における栄養塩濃度の管理方法について検討した。
[大阪府]
- 底質環境を改善するため、小型漁船が専用の桁を曳航し海底を耕耘する取り組みを実施した。[漁業者組織(神戸市、洲本市、淡路市)、大阪府漁連]
- ため池の適正な維持保全と浅場への栄養塩供給を目的とした、漁業者と農業者の連携によるため池の池干し(かいぼり)を2箇所(淡路市)で実施した。[漁業者組織(淡路市)]
- ゴカイ等の底生生物の増加や海藻・海草類の成長促進を目的として、海域に有機肥料を投入する取り組みを実施した。[漁業者組織(神戸市、淡路市、洲本市)]

3. 多様な主体との連携

- 大阪湾再生に取り組める次世代の育成等や、市民団体・民間企業等とのネットワークの強化を図るため、引き続き大阪湾フォーラム、大阪湾生き物一斉調査、大阪湾再生水質一斉調査等の各種イベントに参画した。[神戸港湾空港技術調査事務所]
- 大阪湾の陸域・河川及び大阪湾の沿岸域などにおいて様々な施策が実施され、幅広い世代が参加できるようになっている。イベントの内容によっては、小学生等を対象としたものもあり、若い世代の参画促進が図られている。
- 官民連携の体験活動の実施に向けて学校教育等へヒアリングを実施し、連携を推進した。[近畿地方整備局]
- 大阪湾再生に取り組める次世代の育成、若者たちが主体的に参画できる場と機会の創出を目的に、高校生を対象とした「第5回大阪ベイスクール」を8月1日(金)に開催した。インターネット募集に対して15名が参加し、ごみ問題、干潟・浅場の役割、貧酸素水塊、栄養塩偏在などの説明に加えて、今年度はCO₂増加・地球温暖化などの環境問題の説明と、それに併せて地球温暖化によって発生リスクが高まっている『高潮』についても学習した。[近畿地方整備局港湾空港部]



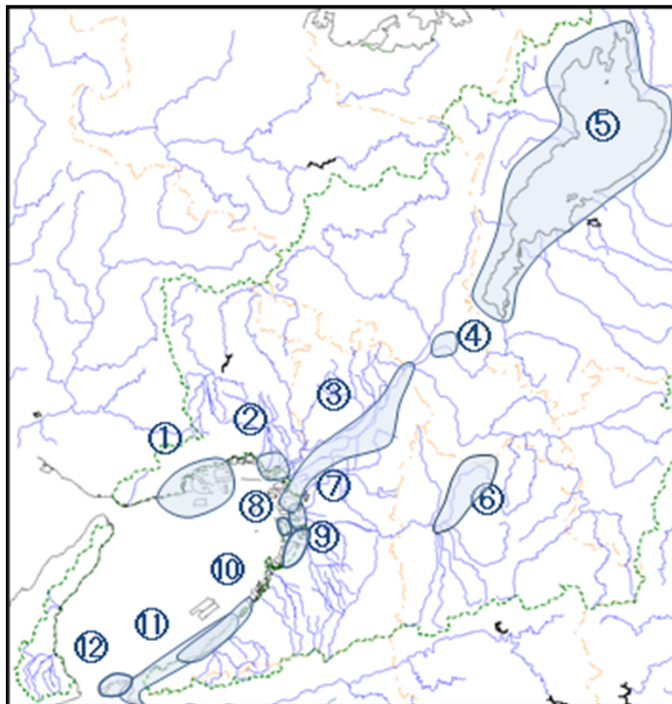
「大阪ベイスクール」の様子

4. 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

- 「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けて、アマモの移植やワーキングを開催するなど民間企業等と連携した取り組みを推進した。〔大阪府、兵庫県〕
- 令和4年1月に策定した「大阪府海域ブルーカーボン生態系ビジョン～藻場の創造・保全による豊かな魚庭（なにわ）の海へ」に基づき増殖場（藻場）の造成を実施した。〔大阪府〕
- ノリ養殖のブルーカーボンクレジットを申請中、「兵庫の藻場とブルーカーボン生態系（仮）」を作成中。〔兵庫県〕

Ⅲ アピールエリアでの 活動状況

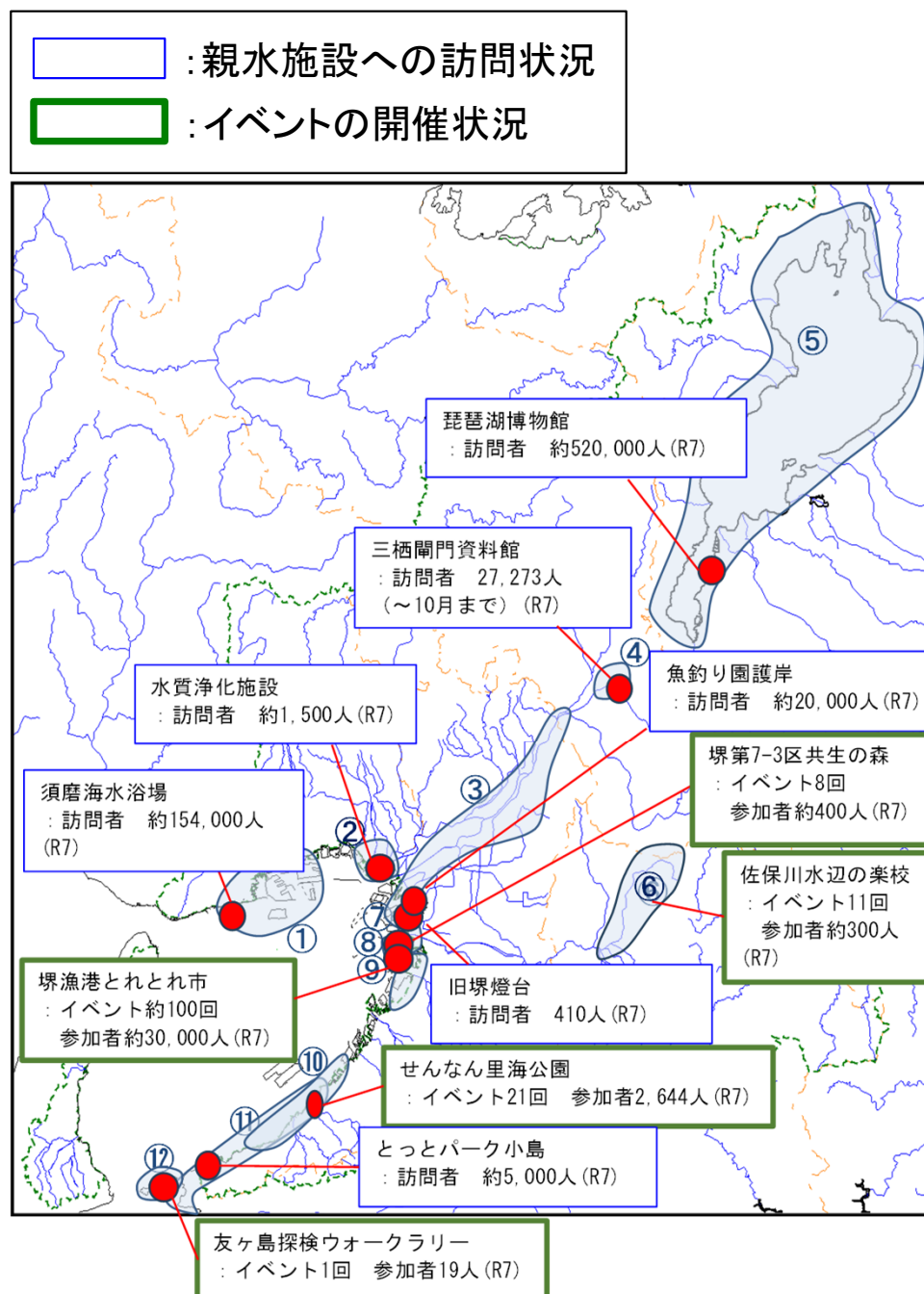
1. アピールエリアの設定状況



No.	アピールエリア	アピールエリアに含まれるアピールポイント
①	潮風かおる港町神戸	須磨海岸、兵庫運河、ハーバーランド～神戸、ポートアイランド、神戸空港
②	水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺	尼崎運河周辺、甲子園浜周辺
③	まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺	大阪市内河川(大阪ふれあいの水辺、城北川遊歩道)、淀川(矢倉緑地公園、淀川の干潟)、中之島、咲洲(野鳥園臨港緑地)
④	水とともに歩いて400年 歴史の転換を担ったみなとまち・伏見	伏見港を核とした伏見地域
⑤	豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖	琵琶湖
⑥	市民が参加した川づくりが進む佐保川	佐保川
⑦	海に親しめる多様な場がある堺の海辺	堺浜、堺旧港
⑧	市民が参加した森づくりが進む臨海部の森	堺第7-3区共生の森
⑨	海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港	堺(出島)漁港、高石漁港
⑩	海水浴やマリレジャーが楽しめる泉州の海岸	二色の浜、せんなん里海、りんくう公園
⑪	海の恵みを楽しめる泉州の漁港	佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、樽井漁港、西鳥取漁港、下荘漁港、淡輪漁港、深日漁港、小島漁港、加太港
⑫	楽しみ学べる友ヶ島	友ヶ島

2. アピールエリアの訪問・イベント開催状況

●各アピールエリアの親水施設等に多くの訪問者が訪れ、多彩なイベントに多くの人に参加している。



<主な親水施設等への訪問状況、イベントの開催状況>

3. アピールエリア毎の状況(その1)

<p>①潮風かおる港町神戸</p>	<ul style="list-style-type: none">・須磨海岸では大阪湾生き物一斉調査を実施し、HPでのPRやプレス発表により参加者数は約30人で、子供から大人まで幅広い年齢層の参加があった。参加者からの意見として、「解説もあり、生き物のことを知ることができた。」等があった。・兵庫運河では2025兵庫運河祭が開催され、兵庫運河のさらなる利用促進、地域活性化を目的に、地域住民や企業等と協働で、兵庫運河を使った水上イベントや体験・展示等が実施された。 <p>⇒これらの多彩なイベントは多様な主体が連携して実施されて幅広い年齢層が参加しており、環境教育につながっている。</p>
<p>②水に親しみ学べる尼崎・西宮の海辺</p>	<ul style="list-style-type: none">・尼崎運河周辺の水質浄化施設では、HP及びパンフレット等でのPRにより訪問者数は約1,500人であり、訪問者数や視察者の増加がみられた。環境学習会やオープンチャンネルデイ等を約30回開催し、多様な世代からの参加者数は約1,200人であった。・甲子園浜では大阪湾生き物一斉調査が開催され、多様な世代の16人が参加するとともに、西宮市の調査ではシギ・チドリをはじめとする様々な鳥類が確認された。 <p>⇒尼崎運河・甲子園浜周辺では生物調査や様々なレクリエーションが実施され、多様な世代の参加により環境教育につながるとともに、甲子園浜周辺では鳥類の飛来地としての場にもなっている。</p>
<p>③まちなかで水に親しめる水都大阪の水辺・海辺</p>	<ul style="list-style-type: none">・水環境に関する講座（東淀川区）では、海洋プラスチックごみに関する環境学習、水のきれいさ実験、観察シートを用いた環境学習（柴島干潟で採れた生き物を観察）等を実施し、49人の親子が参加した。・講座内で実施した調査では、淀川の干潟において、ニホンウナギ、ワカサギ、アユ等の多く生物を確認することができた。 <p>⇒まちなかで水に親しめるイベントや環境学習会等の開催により、幅広い世代の住民が参加し、環境に対する知識や関心が醸成されている。また、淀川の干潟は、まちなかでの生物生息の場として重要な役割を果たしている。</p>

3. アピールエリア毎の状況(その2)

<p>④水とともに歩んで400年 歴史の転換を担った みなとまち・伏見</p>	<ul style="list-style-type: none">・「ふしみなーとフェスタ2025」では、企業・団体・学校・行政等がマルシェ「ふしみ五四市」や秋のスイーツ&パンひろば等を実施し、全世代の約5,000人の参加があった。・「桃山語り部の道 桜まつり」では地元の団体が中心となって宇治川派流沿いの園路（伏見みなと公園内）において露店を並べ、幅広い世代から約3,000人の参加があった。 <p>⇒様々な主体等と連携した水辺に触れ合えるイベント等の開催により、幅広い世代が参加し、レクレーションや観光の場や機会につながっている。</p>
<p>⑤豊かな自然と歴史を感じられる琵琶湖</p>	<ul style="list-style-type: none">・琵琶湖では、マザーレイクゴールズ（MLGs）を推進するためワークショップ等を実施し、375人の参加があった。・アクア琵琶では水辺の匠において、瀬田川洗堰見学ツアーや水質調査体験等を実施し、大人や子どもの参加者数は約500人（スタッフ含む）であった。・琵琶湖博物館では、滋賀県のさまざまな地域の魅力を感じてもらおう観察会・見学会、里山や田んぼでのくらしの体験教室等を50回開催し、参加人数は1,000人であった。 <p>⇒琵琶湖周辺の親水施設では琵琶湖・淀川流域の豊かな自然や歴史を学ぶことができるイベントが開催され、多様な主体や世代の訪問者、参加者が得られている。</p>
<p>⑥市民が参加した川づくりが進む佐保川</p>	<ul style="list-style-type: none">・佐保川水辺の楽校（佐保川小学校前）では、小学生による清掃活動やわいわい桜祭りが11回実施され、個人、各種団体、地元自治会、学校等から約300人の参加があった。・川の学校（環境学習サポート）を奈良県内の国公立・私立の小学校等に紹介し、22回実施したところ、1,001人の参加があった。 <p>⇒清掃活動や環境学習等の実施により、多くの小学生を含む全世代の参加が得られている。</p>

3. アピールエリア毎の状況(その3)

<p>⑦海に親しめる多様な場がある堺の海辺</p>	<ul style="list-style-type: none">・海岸美化活動（堺浜ふれあいビーチ）には1,065人が参加し、5,500kgのごみを回収した。・堺旧港の史跡旧堺灯台公開イベントは、全世代から410人の参加があった。 <p>⇒堺浜での海岸美化活動によるごみ削減、堺旧港では、過年度の海岸護岸（親水護岸）の整備及び多様なイベントの開催により、観光の場と機会の創出につながっている。</p>
<p>⑧市民が参加した森づくりが進む臨海部の森</p>	<ul style="list-style-type: none">・「森MORI！Sunディ」は草刈・間伐、自然観察・自然クラフト等を通して自然環境の重要性等を感じてもらうイベントとして8回開催し、幅広い層から400人が参加した。・植栽等の森づくり活動の実施により、1,000種類以上の植物及び生物を確認（令和6年度末現在）している。 <p>⇒市民や企業等による植栽や草刈・間伐により多様な生物の生息が確認されるとともに、多様な主体や世代による活動や自然観察等を通して環境教育につながっている。</p>
<p>⑨海の恵みを楽しめる堺・高石の漁港</p>	<ul style="list-style-type: none">・堺(出島)漁港ではとれとれ市が毎週土・日に約100回開催され、参加者数は約3万人であった。ホームページ等を活用してPRを行っている。 <p>⇒継続的な漁業の実施により、とれとれ市の開催や漁業の活性化につながっている。</p>

3. アピールエリア毎の状況(その4)

<p>⑩海水浴やマリ ンレジャーが楽 しめる泉州の海 岸</p>	<ul style="list-style-type: none">・二色の浜公園では、公園周辺の自然環境に親しみながら近木川河口や汽水ワンドに生息する生き物を観察し、43人の子供が参加した。参加者は、身近な場所にも多様な生き物が生息していることを実際に見て学ぶことができ、生物多様性への理解を深める貴重な機会となった。・せんなん里海公園では、淡輪箱作海岸・磯浜見学会や親子しぜん体験会等の多彩なイベントが開催された。大阪湾生き物一斉調査は3回実施し、子供と大人の110人が参加し、参加者から「思っていたよりたくさんの生物がいて、詳しく説明してもらい大変よかった。」等の意見が寄せられた。 <p>⇒場所の状況に応じて、多様な主体の連携によるイベントの開催により、親子が楽しみながら環境学習ができる場となっている。</p>
<p>⑪海の恵みを楽 しめる泉州の漁 港</p>	<ul style="list-style-type: none">・佐野漁港、田尻漁港、岡田漁港、下荘漁港、淡輪漁港、深日漁港、加太港では、青空市場や海のマルシェ、ふれあいフェスタ等が開催され、多くの人が参加した。・西鳥取漁港では、波有手(ぼうで)のカキ小屋が約25回開催され、参加者数は約7,500人であった。 <p>⇒釣り公園では毎年多くの人を訪れ、漁港では市場やマルシェ等を定期的に開催しており、多くの市民や観光客等が参加している。また、各漁港において、継続的に漁業を実施している。</p>
<p>⑫楽しみ学べる 友ヶ島</p>	<ul style="list-style-type: none">・友ヶ島探検ウォークラリー「ウミプラー ～海とプラスチックの友ヶ島での物語～」では、友ヶ島の海岸のごみ拾いをしながら観光ポイントを巡るビンゴを実施し、和歌山市内の小学生19人が参加した。 <p>⇒地元の小学生が参加したごみ拾いや観光ポイント巡りにより、多様な世代による取り組みにつながっている。</p>

令和8年度においても、
目標達成に向けた取り組みを
着実に推進する。

